

塩竈市教育委員会点検・評価報告書
平成 25 年版
(平成 24 年度実績)

平 成 25 年 9 月

塩竈市教育委員会

はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第 27 条に基づく塩竈市教育委員会の活動に係る点検・評価の結果を報告いたします。この報告は、同法により教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会へ提出するとともに公表するものです。また、点検及び評価を行うにあたり、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとされています。

塩竈市教育委員会では、これまでも各年度の決算等において、主要な施策の成果に関する報告書などの資料を作成し、施策や事業についての報告を行ってきましたが、本報告書は、本市教育行政の運営に主体的な役割を果たしている教育委員会の活動内容と、平成 24 年度の事業実施概要・評価、事業の課題・改善策等を主な内容として編集しております。

今回の報告にあたりまして、学校教育に関しては点検評価員を含む学識経験者を教育アドバイザーとして校長会との懇談会を開催し学校教育や生涯学習についての事前説明を十分に行之、学力向上に対する取組をはじめとする主要課題について意見や提言を受けております。生涯学習に関しては様々な開催イベントにご参加する機会を設けながら、さらに深く塩竈市の教育について理解の深化に努めてまいりました。

このような過程を踏みながら教育委員会が自ら点検・評価したことにより認識された課題、学識経験者の意見等を参考に、児童生徒の学力向上や世代を超えた生涯学習の充実した事業の取組等を報告しております。

震災で被害を受けた学校施設は平成 23 年度中に全てが復旧しましたが、残っていた生涯学習・スポーツ施設も平成 24 年秋までに全て復旧が完了しており、生涯学習施設でも震災以前のように市民の皆様が元気に活動している姿が戻ってまいりました。

教育委員会としては、この報告書を広く公表し、学識経験者はもとより、関係機関、市民の皆様からの意見を拝聴することにより、今後ますます教育の充実と振興に努めてまいります。

塩竈市教育委員会 委員長 柴田 仁市郎

地方教育行政の組織及び運営に関する法律(抜粋)

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第 27 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第 3 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。)を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

目 次

はじめに

I	教育基本方針に基づく取組状況・・・・・・・・・・・・・・・・	1
1	家庭・地域と連携して子どもたちの「生きる力」を培う教育の充実・・・	2
①	小・中学校図書館図書整備事業	・・・2
②	学校施設管理事業	・・・4
③	教材備品等整備事業	・・・5
④	情報教育施設整備事業	・・・6
⑤	学校給食指導管理事業	・・・7
⑥	学校保健管理業務	・・・9
⑦	学力向上パワーアップ支援事業	・・・10
ア	しおがまサマースクール・しおがまウインタースクール	・・・10
イ	浦戸サマースクール	・・・10
ウ	少人数指導	・・・11
⑧	小学校指導教員配置事業	・・・14
⑨	小・中学校特別支援教育支援員配置事業	・・・15
⑩	浦戸「特認校」通学費補助金事業	・・・16
⑪	外国語指導助手（ALT）招致事業	・・・17
⑫	就学援助制度	・・・18
⑬	準教科書等の公費負担	・・・19
⑭	小・中学校総合的学習推進事業	・・・20
⑮	塩竈市けやき教室運営事業	・・・21
⑯	塩竈市青少年相談センター運営事業	・・・22
2	市民が心豊かに生活できる生涯学習社会の構築・・・・・・・・	25
①	社会教育振興・生涯学習推進事業	・・・25
②	市民図書館運営事業	・・・27
③	視聴覚教育振興事業	・・・29
④	勤労青少年ホーム事業	・・・29
⑤	公民館運営事業	・・・30
⑥	ふれあいエスプ塩竈運営事業	・・・32
3	魅力ある塩竈の芸術・文化の継承と創造・・・・・・・・	34
①	文化財保護事業	・・・34
②	市民交流センター管理運営事業	・・・36

4	感動と活力にあふれるスポーツ活動の推進・・・・・・・・・・	37
①	屋内スポーツ施設管理運営事業	・・・37
②	屋外スポーツ施設管理運営事業	・・・38
③	一流アスリート誘致先導事業	・・・40
5	震災復興と災害に強い教育・文化の取組・・・・・・・・・・	41
①	復興教育支援事業	・・・41
②	被災児童生徒就学援助事業	・・・42
③	学び支援コーディネーター等配置事業	・・・43
④	放射能への対応	・・・44
6	教育行政の積極的な情報発信・・・・・・・・・・	45
①	塩竈市教育フェスティバル	・・・45
II	全体評価と今後の課題・・・・・・・・・・	46
	教育総務課	・・・48
	学校教育課	・・・48
	生涯学習課	・・・49
	生涯学習センター	・・・50
	市民交流センター	・・・51
III	学識経験者による意見・・・・・・・・・・	52
	今泉理栄子氏（元小学校校長）	・・・52
	本田 伊克氏（宮城教育大学准教授）	・・・56

I 教育基本方針に基づく取組状況

平成24年度 塩竈市教育基本方針

子どもから大人まであらゆる世代が夢にあふれ

塩竈に生まれ、育ち、そして暮らすことを誇りに思い

生き生きとしたまちを創るために

次のことを重点に市民の教育・学習機会の充実に努める

5つの方針

- 1 家庭・地域と連携して子どもたちの「生きる力」を培う教育の充実
- 2 市民が心豊かに生活できる生涯学習社会の構築
- 3 魅力ある塩竈の芸術・文化の継承と創造
- 4 感動と活力にあふれるスポーツ活動の推進
- 5 震災復興と災害に強い教育・文化の取組

塩竈市教育委員会は、塩竈市教育基本方針に基づき各種施策や事業を実施しています。

この点検・評価報告書の作成にあたっては、平成24年度に実施した主な事務事業を、上記5つの方針ごとに分類整理していますが、これらの方針に共通する視点や事務事業等については、「6 教育行政の積極的な情報発信」として取りまとめ掲載しました。

今回の塩竈市教育委員会点検・評価報告書平成25年版を作成するにあたっては、教育委員会の実施事業について点検し、評価することに重点をおき、審議案件、会議一覧、活動等については「平成25年度塩竈市の教育」に掲載することにしました。

教育基本方針に基づく取組状況では、教育委員会で実施しました事業について【事業内容】【平成24年度の事業実施概要・評価】【事業の課題・改善策】としてまとめております。

1 家庭・地域と連携して子どもたちの「生きる力」を培う教育の充実

心豊かで健やかに生きる子どもたちを育み、また、子どもたちが安心して学べる教育環境をつくるため、さらに学校・家庭・地域が協働して子どもたちの成長を支えるために、次の事業を実施しました。

事業名	1-① 小・中学校図書館図書整備事業	担当課	教育総務課
-----	--------------------	-----	-------

【事業内容】

子どもたちの活字離れによる「読む力」の低下が問題視されていることから、子どもたちの学校図書への興味を促すため、学校図書館図書蔵書の計画的整備を行う。「塩竈市子ども読書推進計画」に基づき、子どもが読書を楽しむことができる、より良い環境を整える。

【平成 24 年度の事業実施概要・評価】

学校図書館については、支援による寄贈図書や図書館整備員の配置等により蔵書数及び読書環境は大幅に改善された。しかし、「子どもの読書推進計画」で目標としている「学校図書館図書標準値の 90%以上」との蔵書数整備目標に達しない学校が 2 校あった。

- (1) 各団体、企業からの図書の寄贈支援もあり、児童生徒 1 人あたりの蔵書冊数が増加した。
- (2) 蔵書目標数は、「塩竈市子ども読書推進計画」に基づき、学校図書館図書標準を目指しているが、達成度 90%以上を達成した学校は、小学校で 7 校中 6 校、中学校は 5 校中 4 校となった。
- (3) 図書館整備事業のほか、平成 23 年度に引き続き国の緊急雇用を活用した図書整備員が配置され、貸出補助や蔵書整備、掲示資料の作成等を充実することにより、図書への興味・関心が高まるとともに利用しやすさが向上した。

【事業の課題・改善策】

学校図書館の蔵書数は、全体的に約 1,500 冊増加しているが、目標に達していない 2 校については重点的に蔵書数の増加を進める必要がある。また、整備する図書の充実と児童生徒が利用しやすく、親しみやすい図書館の整備が必要である。

- (1) 質の充実として「学校図書館協議会図書選定基準」に基づいた図書の整備や「学校図書館図書廃棄規準」に基づいた図書の更新を行う。
- (2) 緊急雇用制度を活用した図書館整備員の配置を、今後も継続的に行う。



〈学校図書室内（小学校）〉

図書館蔵書冊数

学校名	児童数 生徒数	H24年度 整備冊数	H24年度 寄贈等冊 数	H24年度 蔵書冊数	文科省学校 図書館図書 標準値	達成度
第一小学校	283	36	229	9,539	8,760	108.9%
第二小学校	634	43	357	15,899	11,760	135.2%
第三小学校	516	49	264	14,816	10,760	137.7%
月見ヶ丘小学校	435	33	466	10,497	9,560	109.8%
杉の入小学校	434	45	194	11,078	10,360	106.9%
玉川小学校	342	40	487	7,473	8,760	85.3%
浦戸第二小学校	14	10	129	4,355	3,520	123.7%
小学校計	2,658	256	2,126	73,657		
第一中学校	354	39	484	12,591	11,200	112.4%
第二中学校	342	45	226	11,382	12,160	93.6%
第三中学校	271	22	203	10,418	10,720	97.2%
玉川中学校	459	39	163	11,670	13,120	88.9%
浦戸中学校	16	12	235	5,610	5,440	103.1%
中学校計	1,442	157	1,311	51,671		
小中学校計	4,100	413	3,437	125,328		

※「児童生徒数」は、平成24年5月1日現在のもの。

※「平成24年度蔵書冊数」は、平成25年3月31日現在のもの。

※達成度は塩竈市子どもの読書推進計画に基づき、「学校図書館図書標準」より算出。

塩竈市子どもの読書推進計画 目標値…

「学校図書館図書標準」各学校達成率90%以上を目指す。

※平成23年度では国の重点分野創出事業を活用した学校図書館整備事業により
図書購入を重点的に行ったが、平成24年度では図書室の環境整備を中心に、
本棚やラックなどの整備を行った。



事業名	1－② 学校施設管理事業	担当課	教育総務課
【事業内容】 児童生徒の安全と快適な学校経営のため、小中学校施設の適切な維持管理を行い教育環境の向上を図る。 【平成 24 年度の事業実施概要・評価】 各小中学校の学校施設等の状況を把握・整理し、緊急性・必要性の高いものから施設整備を行った。学校施設は老朽化が進み、また、施設設備が多岐にわたることから、学校と連絡を密にし、次の修繕及び工事を行ったことにより、児童生徒の安全の確保と教育環境の維持・向上が図られた。 〈小学校の主な施設整備〉 1. 施設整備事業 (1)一小給食室給水管改修工事 (2)二小給水ポンプ入替工事 (3)二小トイレ給排水改修工事 (4)三小小荷物昇降機改修工事 (5)三小給食室屋上防水改良工事 (6)三小間仕切り壁改良工事 (7)月見ヶ丘外灯配線工事 (8)杉小トイレ改良工事 (9)杉小防火改良工事 2. 施設修繕 (1)第一小学校 給水設備、校舎外壁、小荷物昇降機修繕 (2)第二小学校 給水設備、照明、校舎内壁、非常用放送設備修繕 (3)第三小学校 プールサイド床、ガラス、給食設備修繕 (4)月見ヶ丘小学校 外灯、放送設備、給食設備修繕 (5)杉の入小学校 給食設備、フェンス、衛生器具修繕 (6)玉川小学校 雨水管、消防器具、校舎外壁修繕 〈中学校の主な施設整備〉 1. 施設整備事業 (1)二中防球ネット張替工事 (2)二中校庭ポール取替工事 (3)三中屋上防水改良工事 (4)三中多目的トイレ改修工事 (5)玉中校舎内壁改修工事 (6)玉中ステージワイヤー改修工事 (7)浦戸中校舎内部改修工事 2. 施設修繕 (1)第一中学校 排水設備、体育器具、給食備品修繕 (1)第一中学校 体育器具、プール給水設備、暖房器具修繕 (1)第一中学校 校舎内壁、空調設備、給水設備修繕 (1)第一中学校 ガラス、体育器具、非常用設備修繕 【事業の課題・改善策】 建築後 40 年以上経過した施設をはじめ、その他多くの施設が 20 年以上経過しており老朽化が進んでいる。良好な教育環境を維持するため、年次計画に基づく適時適切なメンテナンスを行っていく。			

事業名	1－③ 教材備品等整備事業	担当課	教育総務課
【事業内容】 児童生徒の基礎的・基本的な学習理解を助けるうえで、最も重要な一般教材備品の計画的な整備充実を図る。 また、新学習指導要領に対応するため、すべての中学校で武道備品の整備を行う。 【平成 24 年度の事業実施概要・評価】 児童生徒の学習理解を深めるために重要となる教材の整備を行い、学習効果を高めるとともに教育環境の充実が推進できた。新学習指導要領の理念となる「生きる力」を育むために、中学校では武道が必修化となり、次の備品整備を行った。その結果、武道の特性や成り立ち、伝統的な考え方、技名称や行い方を理解するだけでなく、体験的な学習を通して心身の向上に必要な礼儀作法等を身につけることができた。 (1) 中学校の武道用として、剣道防具一式、柔道着及び柔道用畳、畳滑り止めネット等を整備した。 【事業の課題・改善策】 (1) 各学校とも既存教材備品の老朽化が進んでおり、確かな学力、豊かな人間性の育成を図るため、教材の計画的な入替えを進める。 (2) 既に小学校高学年で取り入れられている外国語活動を推進するため、コミュニケーション能力を高めることができる備品を確保をする。 (3) 新学習指導要領に基づく、伝統や文化に関する教育の充実、外国語教育の充実を尚一層推進するため、継続的に備品を購入する。			

事業名	1-④ 情報教育施設整備事業	担当課	教育総務課
-----	----------------	-----	-------

【事業内容】

情報化社会に対応し、児童生徒のコンピュータ機器(PC)の操作、インターネットの活用能力の向上、情報モラルの育成を図り、また、学力向上の一助として情報機器及びインターネット接続環境を整備する。

【平成 24 年度の事業実施概要・評価】

小中学校の情報教育施設整備については、次の業務を行い、学力向上への取組、教職員の業務の効率化の一助となった。また、電子黒板等の視聴覚的効果により児童生徒の学習への興味・関心を高めることができた。

- (1) 各校へ配備しているコンピュータ、その他情報機器の保守管理
- (2) 新規備品（デジタルカメラ・液晶テレビ・ブルーレイディスクプレイヤー等）の整備
- (3) パソコンのほか、電子黒板、プロジェクター、デジタルカメラ、書画カメラ、大画面テレビ、DVD プレイヤー等情報機器の活用
- (4) 電子黒板については、外国語活動、少人数指導、理科教育等の学習のなかでの活用
- (5) 接続環境の整備、保守管理

【事業の課題・改善策】

平成 22 年「新成長戦略」では、「児童生徒 1 人 1 台の情報端末による教育の本格展開の検討・推進」を平成 25 年度までに実施すべき事項としているが、本市では、中学校 8.6 人に 1 台、小学校 21.4 人に 1 台となっており、数値に大きな開きがある。

次の取組により、今後の情報教育施設整備の充実につなげていく必要がある。

- (1) PC 教室への児童生徒 1 人 1 台の PC 配備、校内の LAN 環境の整備、「フューチャースクール推進事業」で新しいツールとして掲げられているタブレット PC の導入などによる ICT 環境の整備を図る。
- (2) 喫緊の課題としては、学校のパソコンの老朽化による備品整備(WindowsXP の保守期限対応等)を図る。



事業名	1-⑤ 学校給食指導管理事業	担当課	教育総務課
-----	----------------	-----	-------

【事業内容】

地域に根付いた学校給食の確立を図るとともに、給食施設の衛生管理の徹底を図る。

また、生涯にわたって健康に過ごすため、児童生徒が食生活に対する正しい理解と、望ましい食習慣を身につけるよう学校給食を活用した特色ある食育の推進を図る。

【平成 24 年度の事業実施概要・評価】

教育計画における保健教育の一環として、食育活動を実施し、児童生徒の心身の健全な発達に寄与できた。
また、給食施設の安全衛生の向上に努め、安全・安心な給食が提供できた。

- (1) 学校給食調理従事者の研修を実施することで、公務災害の防止に努めた。
- (2) 児童生徒・保護者、地域へ情報を発信し、「食」に対して関心を高めることができた。
- (3) 学校給食におけるアレルギー対応として、アレルギー対応食を希望する児童生徒の保護者に対し、医師の記入による「学校給食食物アレルギー生活管理指導表」を基に適切な対応に努めた。
- (4) 平成 24 年度塩竈市学校給食運営プラン研究協議会を立ち上げ、学校給食運営プランの作成に着手した。

【給食提供状況等】

※平成 24 年 5 月 1 日現在の喫食人数

〔小学校〕 自校調理方式（玉川小は第二小との親子調理方式）

	第一小	第二小	第三小	月見ヶ丘小	杉の入小	玉川小	浦戸第二小	計
児 童 数	291 人	590 人	487 人	395 人	421 人	339 人	16 人	2,539 人
教職員数	36 人	52 人	39 人	36 人	32 人	31 人	8 人	234 人
計	327 人	642 人	526 人	431 人	453 人	370 人	24 人	2,773 人
給食回数	177 回（1～4 年生） 175 回（5～6 年生）							
給食単価	255 円/食 年額 45,135 円（1～4 年生） 44,625 円（5～6 年生）							
給食内容	主菜及び副菜の調理を行い、主食となる米飯・パン・麺類等は業者納入 週 2～3 回 米飯給食を実施 年間 88 回（平成 22 年度から）							

〔中学校〕 自校調理方式

中学校	第一中	第二中	第三中	玉川中	浦戸中	計
生 徒 数	352 人	361 人	267 人	456 人	13 人	1,449 人
教職員数	38 人	39 人	35 人	25 人	12 人	149 人
計	390 人	400 人	302 人	481 人	25 人	1,598 人
給食回数	169 回（1～2 年生） 160 回（3 年生）					
給食単価	305 円/食 年額 51,545 円（1～2 年生） 48,880 円（3 年生）					
給食内容	主菜及び副菜の調理を行い、主食となる米飯・パン・麺類等は業者納入 週 2～3 回 米飯給食を実施 年間約 85 回（平成 22 年度から）					

【事業の課題・改善策】

- (1) 塩竈市学校栄養士会が、毎年市内小中学校に実施している「食事についてのアンケート」の結果から、朝食を毎日食べている割合は、昨年度比で 4%減となっており、全国平均を下回っている。また、給食を全部食べる児童生徒は 4 割程度であり、食べ残し率は、全体の約 1 割となっている。今後とも成長期の栄養の重要性と、食べ物大切さについて指導するとともに、給食だより等を活用し、家庭への啓蒙をする必要がある。

〈食事についてのアンケート結果（割合）〉

年度別児童生徒の状況（割合）	H22	H23	H24	全国平均
朝食を毎日食べている	95.3%	94.7%	90.7%	94.9%
給食を全部食べる	37.8%	40.6%	39.3%	—
食べ残し（主食・牛乳・副食）	9.0%	8.9%	8.6%	—

* 全国平均：平成 24 年度全国学力・学習状況調査（文部科学省）による



〈学校栄養士による栄養指導〉

- (2) 給食施設・備品の老朽化等が喫緊の課題となっている。平成 24 年度は本市の学校給食の将来の方向性を定める「塩竈市学校給食運営プラン」の策定に着手した。策定に当たり、学識経験者、地域関係者、保護者代表、学校給食関係者により構成される「塩竈市学校給食運営プラン研究協議会」を開催し、様々な角度から意見を聴取した。概ね素案ができあがり、25 年度中の成案化を目指す。



〈小学校の給食〉

事業名	1－⑥ 学校保健管理業務	担当課	教育総務課
-----	--------------	-----	-------

【事業内容】

学校保健安全法に基づく就学時健康診断や定期健康診断を実施し、その結果、保健上必要な指導助言を行い、児童生徒の健康の保持増進を図る。

【平成 24 年度の事業実施概要・評価】

教育計画における、保健安全教育の一環として児童生徒の心身の健全な発達に寄与できた。

- (1) 各校校医、校長や養護教諭と連携し、円滑に児童生徒の保健事業が実施できた。
- (2) 入学前の健康状態の把握によって、適切な健康管理と学習活動に寄与することができた。
- (3) 飲用水・プール水、教室内空気・照度検査等の学校環境衛生検査の実施により環境整備が図られた。
- (4) 消毒薬及び衛生消耗品の充実により、適切に健康診断等が実施できた。

〈平成 24 年度塩竈市保健調査結果（疾病異常統計）〉

年度別児童生徒の状況（割合）	H22	H23	H24	全国平均
虫歯ゼロ	61.6%	58.3%	59.6%	74.9%
肥満（ローレル指数による）	7.2%	7.3%	7.4%	—

*全国平均：平成 24 年度疾病異常全国統計による

【事業の課題・改善策】

保健調査結果は、虫歯ゼロの児童生徒数は6割に止まっており、肥満の割合は増加傾向にある。今後とも口腔ケア指導を強化するとともに、生活習慣病等に対する保健指導を継続していく必要がある。



事業名	1-⑦ 学力向上パワーアップ支援事業	担当課	学校教育課
-----	--------------------	-----	-------

ア. しおがまサマースクール・しおがまウィンタースクール

【事業内容】

長期休業期間を利用して児童生徒の自主的な学習の場を提供することで学習習慣の定着を図ることを目的に、「しおがまサマースクール」「しおがまウィンタースクール」を開設した。市内の小・中学校に通う小学3年生から中学3年生までの希望する児童生徒を対象に、各小・中学校を会場として実施している。

【平成24年度の事業実施概要・評価】

次のような取組により、小・中学生が自ら進んで学習する場を提供でき、学習意欲の喚起につながった。また、個別の指導も行うことができ、基礎的・基本的事項の理解を深めることができた。

- (1) 各会場には、指導者として小・中学校の教員のほか、学習支援員を2名ずつ配置した。また、平成24年度のサマースクールでは、青山学院大学や宮城教育大学の学生ボランティアによる学習支援の協力を得た。
- (2) 普段の学校の授業とは異なり、県教委が作成した「みやぎ単元問題ライブラリー」や児童生徒が持参した学習教材等を中心とした自主学習を教員・学習支援員が支援する学習形式とした。
- (3) サマースクールには対象児童生徒の約4割が参加し、ウィンタースクールには約3割の参加があった。参加した児童生徒には個別指導を行うこともでき、基礎的・基本的事項の理解と学習意欲の喚起につながるとともに学習の習慣化に役立った。

＜サマースクール・ウィンタースクール参加人数＞

(単位:人、%)

	小学校			中学校			合 計		
	対象人数	参加人数	参加率	対象人数	参加人数	参加率	対象人数	参加人数	参加率
H23年度 ウィンタースクール	1,855	648	34.9	1,484	201	13.5	3,339	849	25.4
H24年度 サマースクール	1,815	792	43.6	1,416	465	32.8	3,231	1,257	38.9
H24年度 ウィンタースクール	1,819	678	37.3	1,417	324	22.9	3,236	1,002	31.0

H23年度サマースクールについては、震災による授業時数確保のため実施できなかった。

【事業の課題・改善策】

長期休業期間の生活リズムを整えるとともに、家庭学習の定着を図る効果もあるため、さらに参加者を増やす必要がある。

- (1) 事業のPRと児童生徒及び保護者へのさらなる参加の呼びかけ。
- (2) 児童生徒が参加したくなるような内容の工夫。(例:教員の特別授業を最終日に1時間設定。)

イ. 浦戸サマースクール

【事業内容】

学習意欲の醸成と浦戸の自然と地域人材活用による体験学習の推進のため、平成21年度から、小学4年生を対象に、浦戸野々島・ブルーセンターで定員を30名とした1泊2日の「浦戸合宿」を企画し、実施した。平成22年度からは、定員を60名に増やし、第1団、第2団の2団編成で実施している。平成23年度は震災の影響により休止したが、平成24年度には再開し、名称を「浦戸サマースクール」に変更した。

【平成 24 年度の事業実施概要・評価】

学校が異なる集団による学習や、大学生による指導によって、学ぶ喜びを体感させ、学習意欲の喚起につながった。また、浦戸ならではの養殖漁業見学や自然観察などを行うことができ、浦戸地域の自然や歴史に対する理解と塩竈市への愛着を深めることができた。

＜平成 24 年度実施内容＞

- ・国語、算数などの基礎的・基本的な学習
- ・浦戸の被害状況の見学と避難訓練による防災学習
- ・島めぐりによる養殖漁業施設見学、島民による講話
- ・島の花や海の生き物などの自然観察
- ・浦戸中学校の天文ドームを活用しての天体観測
- ・島の砂浜清掃及び砂浜アート体験
- ・青山学院大学の学生ボランティアによる学習支援協力



〈浦戸サマースクール〉

【事業の課題・改善策】

子どもたちの活動に対して、参加人員の拡大及び活動内容の工夫、そして、個に応じた対応ができるような支援体制を継続していくことが必要である。

- (1) 支援指導員（学校職員）の確保。
- (2) 学生ボランティアとの連携・協力の継続。

ウ．少人数指導

【事業内容】

平成 21 年度から、児童生徒の学力向上を目的として、小学 5 年生の算数を対象教科として習熟度に応じた少人数指導を実施してきたが、平成 24 年度には、対象を小学 3 年生から中学 3 年生まで幅広く実施した。

【平成 24 年度の事業実施概要・評価】

少人数指導を行うことで、授業が「分かった」という児童生徒が増えている。児童生徒の実態に応じた授業構成が工夫でき、また個に応じた指導の時間も確保されるようになった。

- (1) 指導については、小学校の場合、学級担任や教務主任及び研究主任のほか、少人数指導担当教員が指導にあたり、1学級を「どンドンコース」・「じっくりコース」の2つに分け、児童の実態に応じた指導を行っている。
- (2) コース選択は、レディネステストや単元導入学習後の状況から、児童が自ら選択した結果をもとに担当者が振り分けている。中学校の数学科では、さらに1学級を3つのコースに分けて指導する学校も増えている。
- (3) 教育委員会として、学校教育課長・指導主事が年間5回ずつ全ての小・中学校を訪問し、児童生徒の学びの支援や教師への指導・助言を行っている。

<算数のアンケート調査結果から>

- ・対象・・・市内小学5年生（少人数指導実施学年）
- ・実施時期・・・平成23年12月、平成24年12月実施

アンケートの質問「学習したことはよく分かりましたか」

	分かった	普通	分からなかった
H23年	60.4%	37.0%	2.6%
H24年	64.1%	34.9%	1.0%

コースに分かれて学習することについては、「分かった」「普通」を合わせると95%を超える。児童は、少人数指導の良さを実感していることが分かる。

※分かれて学習したいと答えた児童の理由

自分に合ったペースで学習できる。静かで集中できる勉強が分かりやすい。意見がたくさん言える。分かるまででいいのに教えてもらえる。



<小学校の授業風景>

＜全国学力学習状況調査から＞

（小学生）

（単位：％）

項 目	H22	H23	H24	備考
1日1時間以上読書する児童の割合	14.4	15.3	14.0	県平均 16.0 国平均 16.1
家で学校の宿題をしていますか	98.3	97.9	96.8	県平均 97.3 国平均 97.0
学校の授業以外で30分以上勉強する割合	87.7	84.7	88.6	県平均 89.1 国平均 85.6
読書は好きですか	77.0	64.8	72.1	県平均 73.5 国平均 72.6
全国学力調査平均正答率 国語A：主として知識	82.5	75.2	77.9	県平均 81.7 国平均 81.6
全国学力調査平均正答率 国語B：主として活用	74.1	36.8	48.7	県平均 55.9 国平均 55.6
全国学力調査平均正答率 算数A：主として知識	71.7	76.8	69.5	県平均 72.7 国平均 73.3
全国学力調査平均正答率 算数B：主として活用	47.4	43.9	55.3	県平均 58.1 国平均 58.9

（中学生）

（単位：％）

項 目	H22	H23	H24	備考
1日1時間以上読書する児童の割合	16.2	12.9	13.5	県平均 14.7 国平均 13.5
家で学校の宿題をしていますか	85.4	94.0	87.1	県平均 86.1 国平均 85.7
学校の授業以外で1時間以上勉強する割合	55.1	85.1	82.3	県平均 84.7 国平均 83.3
読書は好きですか	81.3	76.9	80.2	県平均 74.2 国平均 69.7
全国学力調査平均正答率 国語A：主として知識	72.4	79.3	73.0	県平均 76.2 国平均 75.1
全国学力調査平均正答率 国語B：主として活用	59.8	65.2	63.7	県平均 65.5 国平均 63.3
全国学力調査平均正答率 数学A：主として知識	57.4	52.2	56.2	県平均 60.8 国平均 62.1
全国学力調査平均正答率 数学B：主として活用	39.6	45.7	47.1	県平均 50.5 国平均 49.3

※ 小学校は国語、算数とも全国・県の平均正答率との差が広がっており、中学校は国語、数学とも全国・県の平均正答率に近づいている。特に国語B（主として「活用」に関する問題）は、全国平均を上回っている。

小学校については、少人数指導に係る指導体制が軌道に乗っている学校では全国・県の平均正答率を上回る傾向が見られるが、指導体制づくりが途上の学校では全国・県の平均正答率を下回る傾向が見られる。

生活習慣や学習環境に関する調査から、学校の宿題は、ほとんどの児童生徒が行っており、中学生では全国・県平均を上回っている。

【事業の課題・改善策】

アンケート調査から学習意欲や授業理解に関しては、少人数指導の効果はあがっているといえるが、全国学力学習状況調査や標準テスト等にも取組の成果として表れるように以下の取組を継続していく。

- (1) 少人数指導の継続。（習熟度別学習等効果的学習形体の推進）
- (2) 指導訪問による授業内容の工夫・指導の継続。
- (3) 子どもの学ぶ姿勢づくり（しおがま学びスタンダード）の徹底、継続指導
- (4) 塩竈市学力向上推進委員会の継続実施。
- (5) 塩竈市学習定着状況調査結果の活用。
- (6) 家庭との連携強化、家庭学習の充実。

事業名	1－⑧ 小学校指導教員配置事業	担当課	学校教育課
【事業内容】 平成 21 年度から学力向上の一環として、少人数指導を計画的に実践するため、小学校（浦戸二小を除く）6 校に 1 名ずつの指導教員を配置した。また、習熟度別少人数指導を行い、児童一人一人に応じた指導の充実を図った。 【平成 24 年度の事業実施概要・評価】 小学校指導教員の配置により少人数指導が円滑に実施できた。個に応じた指導により基礎的・基本的事項の理解が深まった。 (1) 学校教育課長と指導主事 2 名が年間 5 回、各小学校の授業参観を行い、授業改善の指導・助言を行った。 (2) 学習したことが「分かった」という児童の割合が平成 23 年 12 月には 60.6%であったが、平成 24 年 12 月の調査では 65.1%に増加した。児童の実態に合わせて個に応じた指導を継続できたことで着実に基礎学力が向上した。 【事業の課題・改善策】 習熟度別少人数指導のさらなる充実を図り、学習が「分かった」という児童の割合をさらに高めるとともに、学力の向上の実態を把握することが課題である。 (1) 少人数指導の継続実施。 (2) 指導訪問による授業内容の工夫・改善の継続。 (3) 塩竈市学習定着状況調査の継続と活用。			

事業名	1－⑨ 小・中学校特別支援教育支援員配置事業	担当課	学校教育課
-----	------------------------	-----	-------

【事業内容】

個に応じたきめ細かな特別支援教育の充実を図るため、小中学校（浦戸を除く）10校に支援員を1名ずつ配置した。なお、雇用創出基金事業を活用して、各校にさらに1名ずつを配置している。

＜特別支援教育支援員の役割＞

① 基本的な生活習慣確立のための日常生活上の支援

給食時間の身支度や配膳・下膳の補助、食事の介助、衣服の着脱の介助、排泄の介助など

② 授業時の学習支援

授業中に動き回ったり、私語をしたりする児童生徒への声がけなど

③ 児童生徒の健康・安全確保

体育の授業や図工、家庭科の実技を伴う授業で補助をし、安全確保を図るなど

④ 学習活動、教室間移動等における支援

学習の場所を移動する際の介助など

【平成24年度の事業実施概要・評価】

特別支援教育支援員の配置により、きめ細かい個に応じた支援ができるとともに、学級・学校運営の円滑な推進に効果があった。

- (1) 新入学児童に対しては、特に基本的な生活習慣確立のための介助を中心に行うことで、初めての学校生活をスムーズに送ることができる効果があった。
- (2) 発達障害の児童生徒は年々増加傾向にあるが、特別支援教育支援員の配置により、円滑に学校生活を送ることができた。また、それぞれの学習の場面に応じた個別的な支援を図ることができた。

【事業の課題・改善策】

個々の状況に対応する特別支援教育の推進が図られた。また、増加する発達障害等の児童生徒への今後のさらなる対応策が課題である。

- (1) 支援員を対象とした研修の実施。
- (2) 支援員数の適正化の検証。



〈特別支援学級で制作された貼り絵〉

事業名	1-⑩ 浦戸「特認校」通学費補助金事業	担当課	学校教育課
-----	---------------------	-----	-------

【事業内容】

平成17年度から、浦戸第二小学校と浦戸中学校を併設するとともに、「豊かな自然の中で小規模校の特色ある教育を受けたいという希望がある場合には、住所を移さずに、学区外からでもその児童・生徒の転入学を認める」という宮城県初の特認校制度を導入した。

それに伴い、特認校制度で島外から通学する児童生徒の保護者の経済的負担を軽減するために、塩竈市から通学に要する経費（市営汽船乗船料）の一部を助成している。平成20年度までは市営汽船乗船料の2分の1を補助金として交付してきたが、平成21年度からは3分の2の補助に増額している。

【平成24年度の事業実施概要・評価】

平成24年度は小学生13名、中学校11名に通学に要する経費の3分の2を補助した。

島内の児童生徒数の減少にも関わらず、「特認校生」の受け入れによって、学級・学校に活気が認められた。

（浦戸第二小学校、浦戸中学校児童生徒数）

（単位：人）

	H22年度			H23年度			H24年度		
	島内	特認	計	島内	特認	計	島内	特認	計
浦戸二小	2	9	11	3	8	12	1	13	14
浦戸中	7	15	22	4	12	15	6	11	17
合計	9	24	33	7	20	27	7	24	31



※浦戸地区（浦戸諸島）・・・日本三景松島の湾内に点在する桂島（桂島地区・石浜地区）、野々島、寒風

沢、朴島の四つの島・五つの地区からなっています。名前の由来は松島湾（浦）の門戸からきています。

【事業の課題・改善策】

特認校制度開始以来、特認校生は一定数を確保しており、離島振興に大きく貢献している。島内・島外ともに、小学校低学年児童数の減少傾向が顕著であるため、以下の取組により児童生徒の確保に今後も努めていく必要がある。

- (1) 浦戸「特認校」通学費補助金事業の継続により、同一家族内の児童生徒の通学および新規の入学を促進する。
- (2) ホームページ、広報等で浦戸第二小学校・浦戸中学校での取組と特認校制度を周知する。

また、離島の自然やマンパワーを生かした、浦戸ならではの魅力ある教育課程の編成と実施を推進していく。

- (3) 11月に実施する学校見学会、1月末に実施する体験入学において、学校側との連携を図りながら円滑な受入れを行う。特に、小学校入学段階からの児童の受入れを積極的に行うために、保育所・幼稚園等への呼びかけを行っていく。

事業名	1－⑪ 外国語指導助手(ALT)招致事業	担当課	学校教育課
-----	----------------------	-----	-------

【事業内容】

国際化の進展に対応するため、児童生徒の外国語能力及び国際社会に対応できる能力の育成と国際理解教育を推進していくことを目的に、平成8年度から外国語指導助手（ALT）を招致し、市内各小中学校の英語教育の一層の充実を図る。

【平成24年度の事業実施概要・評価】

2名のALTが、市内中学校を1カ月周期で訪問し、小学校においても各学校年間15日程度訪問している。

＜職務内容＞

- ①市内中学校における英語授業の補助
- ②市内小学校における外国語活動等の国際理解教育の補助
- ③英語教材作成の補助及び英語スピーチコンテストへの協力
- ④市内中学校での課外活動への協力
- ⑤市内小学校での外国語活動への協力

【事業の課題・改善策】

児童生徒の外国語能力やコミュニケーション能力の向上のため、ネイティブの言語に数多く触れる場の設定が重要である。したがって、ALTのさらに有効な活用の在り方について検討する必要がある。

そのため、各校において、外国語指導助手が担当教員と授業前に十分に打ち合わせを行い、よりよい外国語活動・国際理解教育を実現するため、学校として教育課程の工夫等を進めていく必要がある。



〈「世界のいただきます」 ベルギー編〉

事業名	1-⑫ 就学援助制度	担当課	学校教育課
-----	------------	-----	-------

【事業内容】

<就学援助>

経済的理由によって就学困難と認められる学齢児童及び学齢生徒の保護者に対し、必要な援助を与えることとし、もって義務教育段階の児童生徒の就学を確保し、義務教育の円滑な実施に資することを目的とし、学用品費、通学用品費、学校給食費、医療費等を援助する制度である。

<特別支援教育就学奨励の目的>

小学校若しくは中学校の特別支援学級への特殊事情を鑑み、特別支援学級へ就学する義務教育段階の児童生徒の就学を確保し、義務教育の円滑な実施を目的とし、学用品費、通学用品費、学校給食費等を援助する制度である。

【平成 24 年度の事業実施概要・評価】

就学援助制度の趣旨を広く保護者に周知し、就学援助を必要とする世帯の実態把握に努めるとともに、当該保護者に対して支給を行い、経済的負担の軽減を図ることにより、児童生徒の就学を確保することができた。

<小学校認定者数・支給金額>

認定者数（人）	金額（千円）		
	要保護・準要保護	特別支援教育	合計
422	23、934	561	24、495

<中学校認定者数・支給金額>

認定者数（人）	金額（千円）		
	要保護・準要保護	特別支援教育	合計
303	25、250	447	25、697

【事業の課題・改善策】

母子家庭の増加、景気低迷による保護者の収入減に伴い、今後も支給対象者が増えることが予想されるが、児童生徒の就学の機会を確保するために、今後も継続していく必要がある。

事業名	1-⑬ 準教科書等の公費負担	担当課	学校教育課
-----	----------------	-----	-------

【事業内容】

「義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律」に基づき、準教科書等の一部費用（小学生 1 人につき 500 円以内、中学生 1 人につき 600 円以内）を公費負担した。また、小学 3 年生を対象に社会科副読本『わたしたちのしおがま』を無償配布した。

【平成 24 年度の事業実施概要・評価】

準教科書等の費用の一部を公費で負担することで、保護者の経済的負担の軽減を図ることができた。

加えて、社会科副読本を 3 年生の児童全員に配布することで、郷土の歴史や文化、風土に対する理解を深め、同時に郷土愛育成に大きく貢献した。

<公費負担金支給状況>

	小学生(1 人 500 円以内)		中学生(1 人 600 円以内)		合計	
	支給額(円)	人数(人)	支給額(円)	人数(人)	支給額(円)	人数(人)
H24 年度	1,326,510	2,654	860,850	1,437	2,187,360	4,091

【事業の課題・改善策】

副読本については、今後の改訂を念頭に置いて、情報収集を進める必要がある。また、各小学校における活用の仕方についても把握することにより、郷土愛育成をさらに推進していく。



事業名	1-⑭ 小・中学校総合的学習推進事業	担当課	学校教育課
-----	--------------------	-----	-------

【事業内容】

平成14年度から導入された「総合的な学習の時間」における学習活動に対して助成金を交付し、「地域の文化」、「環境」、「福祉」などの学校毎のテーマに沿った学習体験活動を支援する。

【平成24年度の事業実施概要・評価】

市内小中学校10校に各180千円、浦戸第二小学校・浦戸中学校に270千円、合計2,070千円を交付した。このことにより、各校の実情に応じた特色ある「総合的な学習の時間」の展開につなげることができた。

また、地域住民等との交流や体験活動を通し、児童生徒は地域理解が深まり、テーマに対して主体的に考える力が培われている。

○小学校

- ・地域発見・体験（よしこの塩竈、地域の産業学習、塩竈神社見学、手作りかまぼこ体験、マグロの解体）
- ・環境学習（EM菌作り）
- ・福祉体験（盲導犬、キャップハンディ体験、福祉施設訪問）
- ・英語活動、国際交流活動
- ・和太鼓演奏

○中学校

- ・福祉体験（点字・手話の学習、赤ちゃんふれあい体験）
- ・地域発見・体験（塩竈神楽、民話の学習、よしこの塩竈、藻塩の学習）
- ・職場体験
- ・進路学習
- ・農業体験、漁業体験
- ・演劇活動
- ・地域清掃ボランティア

【事業の課題・改善策】

今後は教科等の枠を越え、児童生徒の興味・関心をさらに引き出す学習に取り組むなど、より一層の工夫をした活動を推進していく。



〈漁業体験のようす〉

事業名	1-⑤ 塩竈市けやき教室運営事業	担当課	学校教育課
-----	------------------	-----	-------

【事業内容】

学校不適応児童生徒の増加とその態様の多様化に対応し、通所児童生徒の個々の状態に応じた指導を行うことにより、学力の向上を図るとともに学習意欲、自立心、社会性を育て、学校生活への復帰を目指す。

【平成 24 年度の事業実施概要・評価】

平成 24 年度は 217 日間開設し、30 人の児童生徒が通所した。

在籍校と連絡を取りながら、定期考査を受けることを勧めたところ、ほとんどの通所生が定期考査などを受けることができた。また、16 名の通所生が部分登校することができ、3 名の通所生が学校復帰をすることができた。さらに、中学 3 年の通所生（9 名）全員が高校への進学を果たした。

(1) 活動内容

①学習活動

- ・基礎基本の復習を中心として、一人ひとりに応じた多様な学習活動を行う。
- ・学習活動を通し、児童生徒の耐性を育み、さらには自立を促し、学校生活への復帰の契機とする。

②共同活動

- ・社会科見学等の体験活動を行うことにより、児童生徒の社会性や集団行動を育てる取組を行う。

③自由時間

- ・子ども同士や指導員との語らいを通して、一日の過ごし方を見つける。

④相談活動

- ・日常生活の中で、あらゆる機会と場をとらえ「心の安定感」を与えるとともに、自らを見つめ直す契機とする。
- ・中学生を対象に、生活、学習及び進路等についてのカウンセリングを行う。

(2) けやき教室通所状況

	H22 年度	H23 年度	H24 年度
通所者数	29 人	36 人	30 人
相談件数	29 件	36 件	43 件
開所日数	208 日	210 日	217 日

*相談件数は、電話相談、訪問相談を受けた件数

(3) 平成 24 年度地域別通所状況

塩竈市	多賀城市	利府町	七ヶ浜町	松島町	合計
21 人	5 人	1 人	3 人	0 人	30 人

【事業の課題・改善策】

不登校になる児童生徒が増加傾向にある中で、不登校対策のひとつとしてけやき教室の役割が重要となっている。児童生徒の抱える家庭環境や人間関係等に関する問題が多様化していることも踏まえて、学校生活への復帰を目指すため、以下のような取組が必要となってきている。

- (1) より多くの不登校児童生徒が通所できるよう、けやき教室と学校・家庭との連携を強化し、受け入れできるような指導・相談体制を促進する。
- (2) 個々の能力や興味・関心、得意・不得意に合わせた自主学習を基本とした個別指導を行い、通所者の学習意欲を高めることで学力を伸ばす取組を行う。
- (3) 継続的な通所を通して生活のリズムを整え、学校への復帰の準備を行えるよう支援していく。
- (4) 通所者及び保護者とけやき教室職員、在籍校との定期的な相談・指導を行い、一人でも多くの通所者が学校へ復帰できるよう支援する。

事業名	1-⑯ 塩竈市青少年相談センター運営事業	担当課	学校教育課
-----	----------------------	-----	-------

【事業内容】

青少年指導員等による巡回活動や、家庭・学校・地域社会・関係機関等との連携と協力を図りながら情報交換を行うなど、青少年の非行防止と健全育成に向け、効果的な活動を推進する。

また、児童生徒を始めとする青少年と保護者・学校関係者の悩みや問題を解消するため、心の専門家である臨床心理士を配置し計画的な教育相談を行うなど、青少年の健全育成に努めている。

【平成 24 年度の事業実施概要・評価】

青少年指導員による定期的な街頭指導活動、所員及び子ども安全サポーターによる登下校時のパトロールにより、青少年の非行の未然防止と通学の安全の確保に一定の役割を果たすことができた。

また、臨床心理士による適切かつ計画的なカウンセリングにより、問題を抱える青少年と家族の不安を取り除くための支援を行った。

(1) 街頭指導活動

①登下校時における子ども安全パトロール等：街指導活動 177 回実施

②青少年指導員 25 名による月 1 回の定例街頭指導の実施：延参加人員 168 名

(2) 子ども安全サポーター登録状況

(単位：人)

学校名	H22 年度	H23 年度	H24 年度
第一小学校	1 1 3	1 2 4	1 2 4
第二小学校	4 2	3 8	3 7
第三小学校	5 3	5 3	4 9
月見ヶ丘小学校	5 3	5 3	5 0
杉の入小学校	5 8	6 2	6 2
玉川小学校	3 7	3 5	3 2
合計	3 5 6	3 6 5	3 5 4

※子ども安全サポーターの高齢化から、若干の減少がみられる。今後、新たな人材の発掘、募集をさらに推進する必要がある。

(3) 青少年育成塩竈市民会議の活動

①構成団体 51 団体と協力し青少年の非行防止と健全育成に努めた。

②第 33 回少年の主張塩竈市大会の開催(会場 塩竈市立第二中学校)

③青少年健全育成仙台地区研修会・塩竈市民のつどいの開催 (会場 ふれあいエスプ塩竈)

④機関誌「心と心 (第 38 号)」を発行し、全世帯に配布

(4) 臨床心理士による相談活動

①相談者別人数

(単位：人)

相談者	H22 年度	H23 年度	H24 年度
小学生	33	26	49※
中学生	7	7	7
高校生	23	15	7
18 歳以上	21	30	49
母親	130	127	179※
父親	19	1	6
教師	5	5	8
その他	10	38	0
計	248	249	305

※平成 24 年度は特に小学生及び母親からの相談者が増加している。様々な悩みを持つ小学生と家族（母親）が相談機関として青少年相談センターのカウンセリングを利用したと考えられる。

②相談内容と相談実施人数

(単位：人)

項目	H22 年度	H23 年度	H24 年度
不登校	94	78	122※
ひきこもり	1	0	13
いじめ	10	4	0
友達関係	19	6	0
非行	6	0	0
性格行動	52	53	66
進路適正	15	22	47※
発達障害	26	16	25
病気	18	17	11
家族関係	7	5	16
その他	0	48	5
計	248	249	305

※平成 24 年度は特に「不登校」と「進路適正」についての相談内容が増加している。カウンセリングが不登校及び将来の進路について悩みを持つ児童生徒に対する相談先として大きな役割を担っている。

(参考：不登校児童生徒数と学校によるいじめ対応件数)

項目	H22 年度	H23 年度	H24 年度
不登校児童生徒割合	2.0%	2.5%	3.0%
学校によるいじめ対応件数（月別集計のべ認知件数）	6 件	10 件	53 件

*平成 24 年 8 月から軽微な「いじわる」「からかい」も認知件数として数えたため、前年度よりも大幅に件数が増えた。

【事業の課題・改善策】

最近の青少年を取り巻く状況は極めて深刻であるが、青少年自身の規範意識の低下、家庭の躾や学校のあり方、地域社会の問題、環境の悪化等が複雑に絡みあっていることが要因と考えられる。そのため、家庭・学校・地域・関係機関が一体となった更なる取組が重要となってくるため、以下のような取組を継続していく必要がある。

- (1) 家庭・学校・地域・関係機関が連携を図るための調整役として、青少年相談センターの機能の充実をさらに図っていく。
- (2) 青少年相談員、子ども安全サポーター等による街頭指導や登下校時における巡回活動を継続的にを行い、非行防止と児童生徒の通学の安全確保に努める必要がある。また、活動の技能向上のための研修会等の機会を設ける。
- (3) 青少年、保護者、教職員の悩みや問題を解消するために、臨床心理士によるカウンセリングを中心として相談体制を引き続き行っていく。



2 市民が心豊かに生活できる生涯学習社会の構築

市民一人ひとりが笑顔にあふれ、心豊かに生活していくため、生涯にわたって学び、交流できる環境づくりに努めました。また、豊かな創造性の育成と地域文化の創造を目的とした生涯学習社会の実現を目指し、総合的・体系的な生涯学習の環境づくりのため、次の事務事業及び施策を実施しました。

事業名	2-① 社会教育振興・生涯学習推進事業	担当課	生涯学習課																																				
【事業内容】 学習機会の充実、学習活動の支援、学習環境の整備などにより、市民が笑顔にあふれ、心豊かに生活していくための、生涯にわたって学び交流できる環境をつくる。 【平成 24 年度の事業実施概要・評価】 社会教育・生涯学習については、次の取組を行い、学習機会の提供、学習活動の支援、生涯にわたって学ぶ環境づくりを行うことができた。 (1) 学習機会の充実や学習活動の支援など、生涯にわたって学び交流できる環境づくりを行った。 (2) 家庭教育講座や生涯学習講座の実施、しおがま出前講座等を通して、市民の学習機会を広く提供した。 (3) 社会教育関係団体の支援や活動情報の提供、「家庭教育支援事業」「まちづくり支援事業」による助成制度により、学習活動を支援した。 (4) 家庭教育支援総合推進事業、宮城県協働教育プラットフォーム事業の実施により、家庭・地域・学校に様々な学習機会を提供できた。特に、生涯学習情報誌『塩竈学びナビゲーション 2013』の発行により、地域の多様な学習情報を提供することができた。 (5) 社会教育関係団体の支援や学習成果の発表の場の提供や、「生涯学習カード」の公表による学習情報の提供及び第一小学校多目的ホールの活用等により、市民の自主的な学習活動を支援することができた。 (6) 「まちづくり・しおがま出前講座」は、平成 23 年度は震災の影響で例年の回数を実施することができなかったものの（実施回数：33 回 受講者数 1,132 人）、平成 24 年度は、ほぼ例年通り実施できた。（実施回数：47 回 受講者数 1,007 人）。生涯学習推進事業として各年齢層に幅広い学習機会を提供し、市民の生涯学習を推進することができた。 ① 家庭教育支援総合推進事業の実施 <table border="1"> <thead> <tr> <th>学習内容</th><th>回数</th><th>受講生(人)</th><th>備考(講座内容)</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>子育て学習(学童期)</td><td>2</td><td>9 6</td><td>「いじめから子どもを守る」等</td></tr> <tr> <td>子育て学習(その他)</td><td>1</td><td>4 4</td><td>絵本ワークショップ、わらべうた遊び講座等</td></tr> <tr> <td>子育て学習(次世代)</td><td>8</td><td>9 4 2</td><td>「中学生と赤ちゃんふれあい交流事業」</td></tr> <tr> <td>子育て学習(保育体験実習)</td><td>1(延べ17日)</td><td>3 7</td><td>「中高生の夏休み保育体験実習」</td></tr> </tbody> </table> ② 「まちづくり・しおがま出前講座」実施 <table border="1"> <thead> <tr> <th>実 績</th><th>平成22年度</th><th>平成23年度</th><th>平成24年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>講座・メニュー数(件)</td><td>87</td><td>87</td><td>83</td></tr> <tr> <td>実施件数(件)</td><td>83</td><td>33</td><td>47</td></tr> <tr> <td>受講者数(人)</td><td>2,522</td><td>1,132</td><td>1,007</td></tr> </tbody> </table>				学習内容	回数	受講生(人)	備考(講座内容)	子育て学習(学童期)	2	9 6	「いじめから子どもを守る」等	子育て学習(その他)	1	4 4	絵本ワークショップ、わらべうた遊び講座等	子育て学習(次世代)	8	9 4 2	「中学生と赤ちゃんふれあい交流事業」	子育て学習(保育体験実習)	1(延べ17日)	3 7	「中高生の夏休み保育体験実習」	実 績	平成22年度	平成23年度	平成24年度	講座・メニュー数(件)	87	87	83	実施件数(件)	83	33	47	受講者数(人)	2,522	1,132	1,007
学習内容	回数	受講生(人)	備考(講座内容)																																				
子育て学習(学童期)	2	9 6	「いじめから子どもを守る」等																																				
子育て学習(その他)	1	4 4	絵本ワークショップ、わらべうた遊び講座等																																				
子育て学習(次世代)	8	9 4 2	「中学生と赤ちゃんふれあい交流事業」																																				
子育て学習(保育体験実習)	1(延べ17日)	3 7	「中高生の夏休み保育体験実習」																																				
実 績	平成22年度	平成23年度	平成24年度																																				
講座・メニュー数(件)	87	87	83																																				
実施件数(件)	83	33	47																																				
受講者数(人)	2,522	1,132	1,007																																				

③ 社会教育関係団体の支援や活動情報の提供

①67団体登録(前年度比 △7団体)

②補助金助成(5団体)

助成団体	金 額 (円)
塩竈市婦人会	62,000
塩釜市芸術文化協会	59,395
塩竈市子ども会育成連合会	64,000
塩竈市父母教師会連合会	45,000
塩竈神楽保存会	45,000

④ 宮城県協働教育プラットフォーム事業実施

事業名	回数	受講生(人)
宇宙の学校atしおがま	3	親子37組(延べ208人)
各小中学校出身スポーツ選手・文化・芸術家の実技・公演活動	2	7 2 5
生涯学習情報誌作成事業 冊子名『塩竈学びナビゲーション2013』	1,000部作成(市内公共施設で配布)	

⑤ 第一小学校多目的ホールの活用

	平成22年度	平成23年度	平成24年度
利用件数(件)	185	268	241
利用者数(人)	2,167	2,491	2,323

【事業の課題・改善策】

社会教育・生涯学習については総じて市民の満足度は高いことから、引き続き施策を行っていくとともに、事業内容はアンケートを活用し、多様化・高度化している市民の学習意欲や社会状況の変化に対応する工夫を行う。

また、東日本大震災の教訓を活かし、市民自らが防災意識と地域の防災力を高めるために、「防災ワークショップ」の実施や、出前講座の防災関係講座の積極的な利用を呼び掛ける。

事業名	2-② 市民図書館運営事業	担当課	市民交流センター
-----	---------------	-----	----------

【事業内容】

市民図書館は、図書館法に基づき設置された公立図書館である。地域の情報拠点として、必要な図書館資料を収集、整理、保存して、市民の利用に供し、その教養、調査等に資することが目的の施設である。また、図書館資料及び施設で展開される各種事業を通じて、市民の生涯学習等を支援する。

【平成 24 年度の事業実施概要・評価】

公立図書館として図書館資料の提供を通し下記の実施計画を行い、市民の読書活動に幅広く貢献し、併せて生涯学習等を支援することができた。同様に市民と連携を図りながら各種事業を行い、多くの市民に喜んでいただいた。

- (1) 開館日数 274 日
- (2) 市民の求める読書、学習、研究活動等に必要な資料・情報の提供と、各種事業を展開。
- (3) 図書・新聞・雑誌・CD・DVD 等、図書館資料の充実により、幅広い年齢層が利用できる施設として活用されている。
- (4) 「えほんデビュー事業」において、赤ちゃんから絵本に親しめる子どもの読書環境整備の向上を図ったことにより、6 歳未満の登録者が増加した。
- (5) 学校教育支援の一環として、移動図書館の巡回、団体貸出、出前おはなし会、ブックトーク、職場体験・総合学習の受け入れなど多様なサービスを提供し、子どもの読書活動の推進と学校教育の支援に繋がった。
- (6) 震災後、徐々に利用者数の回復が見られ登録者、貸出数ともに増加した。また、被災地支援の一環で、子どもたちに楽しい時間を提供したいという絵本作家や企業職員のボランティア事業を実施し、復興に向けて市民の心のケアの一助を担った。



〈塩竈市民図書館内（児童架・おはなしのへや）〉

1. 資料購入

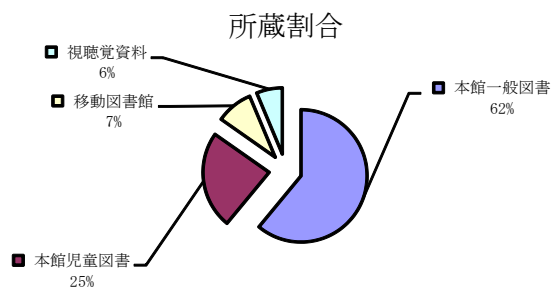
種 別	H 23 年 度		H 24 年 度	
	購 入 点 数	購入費(千円)	購 入 点 数	購入費(千円)
図 書 資 料	4,518 冊	8,132	5,702 冊	9,710
視 聴 覚 資 料	152 点	556	156 点	576
新 聞	11 紙	461	11 紙	461
雑 誌	228 タイトル	2,353	222 タイトル	2,334
その他資料(法規追録)	-	361	-	531
計	-	11,863	-	13,612

2. 利用状況

項 目	H 23 年 度	H 24 年 度	備 考
利用登録者	33,729 人	34,987 人	
貸出者数	55,642 人	57,075 人	1日平均208.3人
貸出件(冊)数	199,266 点	199,918 点	
ア.うち本館貸出	179,246 点	182,587 点	
イ.うち移動図書館等	20,020 点	17,331 点	
事業参加者	2,380 人	1,910 人	おはなし会、講座等
予約件数	7,508 件	9,112 件	うちWeb予約2,109 件
参考業務	3,708 件	3,118 件	レファレンス等
文献複写	3,507 枚	3,567 枚	図書資料等
インターネット開放端末	3,058 件	2,714 件	1日平均9.9件

3. 所蔵状況

資 料 種 別	所 蔵 数
本館一般図書	147,799 冊
本館児童図書	58,662 冊
移動図書館	17,909 冊
視 聴 覚 資 料	14,869 点
合 計	239,239 点



4. 電子図書館事業

利用者がインターネットにより自ら情報収集・調査・研究ができる環境を整備するとともに、図書館情報をホームページなどを通じて発信し、市民サービスの向上に努めた。

(1) インターネット・CD-ROM・河北データベース等を用いた情報の提供。

(2) 図書館のホームページから蔵書情報、新刊情報や行事案内などを提供するとともに、各家庭や学校から所蔵資料の検索及び予約等が可能なIT時代に対応した双方向のサービスの提供。

【事業の課題・改善策】

次代の市民へ、人々の日々の営みを文化情報にして伝えるため、市民と協働して、継続して以下の事業に取り組む。

- (1) 市民図書館は、全ての市民に必要な情報を必要な時に提供するとともに、「情報発信の場」「幅広い市民交流の場」としての役割が求められているため、資料の収集・整理・保存・提供の充実を図り、幅広い市民が参加できる各種事業の展開に努める。
- (2) 「塩竈市子どもの読書推進計画」に基づき、ますます、子ども、さらに将来の市民の読書を推進するうえで、地域の読書拠点として果たす役割があり、家庭・学校・地域への支援・連携を強化し、図書館利用の促進と、総合的な読書の推進を図る。

事業名	2-③ 視聴覚教育振興事業	担当課	市民交流センター																											
【事業内容】 視聴覚センターは、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」により設置され、学校教育や家庭教育、生涯学習の振興に寄与するため、視聴覚教材や機材の提供、視聴覚メディアを活用したイベントや講演会・研修会等を実施している。																														
【平成 24 年度の事業実施概要・評価】 パソコンや CD、ビデオ、OHC（書画カメラ）などの視聴覚教材、視聴覚メディアを活用した下記の映画会や講座・研修等を開催し、多くの市民に視聴覚教材による学習機会を提供することができた。 (1) 視聴覚教育の普及を図り、学校教育や生涯学習の振興に資するため、子ども映画会を 2 回開催し、延べ参加者数 968 名で震災の影響を受けた前年度の 2 倍となった。 (2) 視聴覚機材を活用しながら郷土史を学ぶ「しおがま物語」を 3 回開催し、受講者数は前年の参加者数を 21 人上回る 95 名となった。																														
【事業の課題・改善策】 視聴覚メディアの急速な変化に対応すべく、事業運営や手法に工夫を施しながら、前年度を基本として視聴覚事業を推進する。																														
事業名	2-④ 勤労青少年ホーム事業	担当課	生涯学習課																											
【事業内容】 地域で働く青少年の育成のためのサークル活動やレクリエーション等、余暇活動のための場と機会を提供し、青少年の福祉の増進を図る。平成 11 年度から活動の場を生涯学習センター（エсп・公民館）へ移行。生涯学習センターにおける勤労青少年事業の活動の展開を図る。																														
【平成 24 年度の事業実施概要・評価】 地域で働く青少年に、若者の教養を高める場・余暇活動の場を提供するため、次の取り組みを行うことにより、より一層の青少年相互の交流を図ることができた。 (1) 受講者対象年齢の幅の拡大（18～40 歳）。 (2) 各種講座の継続。 (3) 講座開設の時間帯の改善（1 講座を夜間開設から昼間解説に変更）																														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>領域</th><th>事業名</th><th>実施月日</th><th>参加者数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">長期講座</td><td>フィットネス&ソフトエアロビクス</td><td>毎月_火曜日(月 2・3 回)</td><td>187 名</td></tr> <tr> <td>華 道</td><td>毎月第 2・4 水曜日</td><td>84 名</td></tr> <tr> <td>着物着付</td><td>毎月_水曜日(月 2・3 回)</td><td>151 名</td></tr> <tr> <td>クッキング</td><td>毎月第 2・4 木曜日</td><td>163 名</td></tr> <tr> <td>茶 道</td><td>毎月第 1・3 金曜日</td><td>111 名</td></tr> <tr> <td rowspan="2">短期講座</td><td>お菓子づくり</td><td>毎月第 3 木曜日</td><td>70 名</td></tr> <tr> <td>フラワーアレンジメント</td><td>毎月日曜日(月 1 回)</td><td>44 名</td></tr> </tbody> </table>				領域	事業名	実施月日	参加者数	長期講座	フィットネス&ソフトエアロビクス	毎月_火曜日(月 2・3 回)	187 名	華 道	毎月第 2・4 水曜日	84 名	着物着付	毎月_水曜日(月 2・3 回)	151 名	クッキング	毎月第 2・4 木曜日	163 名	茶 道	毎月第 1・3 金曜日	111 名	短期講座	お菓子づくり	毎月第 3 木曜日	70 名	フラワーアレンジメント	毎月日曜日(月 1 回)	44 名
領域	事業名	実施月日	参加者数																											
長期講座	フィットネス&ソフトエアロビクス	毎月_火曜日(月 2・3 回)	187 名																											
	華 道	毎月第 2・4 水曜日	84 名																											
	着物着付	毎月_水曜日(月 2・3 回)	151 名																											
	クッキング	毎月第 2・4 木曜日	163 名																											
	茶 道	毎月第 1・3 金曜日	111 名																											
短期講座	お菓子づくり	毎月第 3 木曜日	70 名																											
	フラワーアレンジメント	毎月日曜日(月 1 回)	44 名																											
【事業の課題・改善策】 一部の講座について、開催時間帯を夜間から昼間に変更したことなどにより、昨年に比べて受講生も増えてきており、引き続き継続して事業に取り組んでいく。																														

事業名	2-⑤ 公民館運営事業	担当課	生涯学習課
-----	-------------	-----	-------

【事業内容】

生涯にわたる多様な学習活動の機会を市民に提供するとともに、市民の地域社会における生涯学習活動への積極的な参加を促進する。

【平成 24 年度の事業実施概要・評価】

公民館では、幅広い年代層にわたる市民に対し、生涯学習の場及び成果の発表の場を提供するため、次の取組を行った。しかし一方では、震災により、本町分室講習室が市の仮事務室となったため、貸館を制限せざるを得なかった。

- (1) 公民館教室、千賀の浦大学、女性セミナーなどの実施。
- (2) 美術展、公民館まつり、各種市民団体、ボランティア団体との連携による事業の実施。
- (3) 公民館及び公民館本町分室の貸館事業。

＜公民館利用状況＞

施設名・項目		主催事業			貸館事業			合 計		
		23年度	24年度	前年比	23年度	24年度	前年比	23年度	24年度	前年比
本 館	件数	430	561	131	2,371	3,226	855	2,801	3,787	986
	人数	8,979	12,966	3,987	49,708	61,603	11,895	58,687	74,569	15,882
本町分室	件数	0	0	0	947	595	△ 352	947	595	△ 352
	人数	0	0	0	15,392	16,693	1,301	15,392	16,693	1,301
合 計	件数	430	561	131	3,318	3,821	503	3,748	4,382	634
	人数	8,979	12,966	3,987	65,100	78,296	13,196	74,079	91,262	17,183

(貸館事業内訳)

施設名・項目		減免あり(貸館)			減免なし(貸館)		
			24年度	前年比	23年度	24年度	前年比
本 館	件数	1,667	2,268	601	704	958	254
	人数	39,554	49,732	10,178	10,154	11,871	1,717
本町分室	件数	362	376	14	585	219	△ 366
	人数	6,136	6,710	574	9,256	9,983	727
合 計	件数	2,029	2,644	615	1,289	1,177	△ 112
	人数	45,690	56,442	10,752	19,410	21,854	2,444



＜主な公民館主催事業＞

領域	事業名	実施月日	参加者数
女性	女性セミナー(年 11 回)	5 月～3 月	525 名
成人	公民館教室 (11 教室)	4 月～3 月	4,110 名
	公民館短期講座(2 講座)	7 月 10 月	187 名
高齢者	千賀の浦大学(年 12 回)	4 月～3 月	1,686 名
芸術文化	第 28 回塩釜市芸術文化祭	10 月 13 日～14 日	1,519 名
	第 65 回塩竈市美術展	11 月 6 日～11 日	1,000 名
	クリスマスコンサート みんな あつまれ!イヴまで待てねっちゃ!	12 月 16 日	180 名
	オペラ歌手太田代将孝 オペラ ガラコンサート	12 月 23 日	100 名
	第 6 回佐藤鬼房顕彰全国俳句大会	3 月 24 日	220 名
	みちのく妖怪祭り	8 月 16 日	84 名
	市民ボランティア講座 (トーンチャイム、歴史、尺八)	4 月～3 月	1,129 名
	第 36 回公民館まつり	3 月 2 日～4 日	1,500 名

【事業の課題・改善策】

少子高齢化や社会情勢の変化に伴い、市民の生涯学習に対するさまざまな要望に応えるため、貸館予約の改善等、生涯学習施設の効率的な運営により利用者の利便を図る。

今後もこれまでの事業を継続するとともに、市民の生涯学習の意欲に応えるため、各種の社会教育活動団体の支援を行う。



事業名	2-⑥ ふれあいエсп塩竈運営事業	担当課	生涯学習課
-----	-------------------	-----	-------

【事業内容】

子どもの成長・発達を助ける機能と、幼児から成人に至るまでの多様な世代が学び、遊び、交流できる機能を併せ持つ施設を運営する。

【平成 24 年度の事業実施概要・評価】

子どもからお年寄りまで、多くの市民に、遊びと学びの活動を通して交流と学習の機会を提供するため、次の取組を行い、生涯学習施設としての役割を果たすことができた。

- (1) 震災の影響で、入館者数等が前年と比べ減少したが、各種エсп事業の充実で市民の学び、遊び、交流を支援することができた。
- (2) しおがま文化大使交流事業として、昨年に引き続き鶴田美奈子さん(ピアニスト)がピアノコンサートを実施し、市民との交流を深め心安らぐひとときを提供することができた。
- (3) 青少年育成事業として、「ESP DANCE PES 2012」を開催した。青少年層の生涯学習への取り組みの事業としてダンスを通し自己表現する楽しさや喜びを感じるイベントは有効であった。
- (4) 年間を通じてボランティアによる「本の読み聞かせ」や「ワークショップ」などを実施し、ボランティアの育成、活動拠点として施設利用が図られた。
- (5) イベントや施設情報の発信をしている館報「ふれあいエсп塩竈公民館だより WAY」「エсп KID'S」が、第 4 回全国公民館報コンクールで優良賞を受賞した。

〈ふれあいエсп塩竈利用状況〉

(件・人)

	H23年度	H24年度	前年度比
入館者数	245,535	232,893	△ 12,642
（うち長井勝一漫画美術館）	25,435	20,149	△ 5,286
図書貸出者数	19,090	17,393	△ 1,697
情報広場パソコン利用者数	11,835	10,218	△ 1,617
貸館事業件数	734	718	△ 16
内訳：減免あり（一部減免を含む）	326	330	4
減免なし	408	388	△ 20
スタジオ登録件数（累計）	663	691	28
ボランティア活動参加者数	1,025	902	△ 123

〈ふれあいエスポ塩竈実施事業〉

領域	事業名	実施月日	参加者数
家庭	未就学児対象事業	4月～3月	1,166名
	あそびまショップ	5月～1月	167名
	子育て講座	12月1日	16名
少年	読み聞かせ	7月～1月	222名
	本のちよっと	4月～3月	121名
	ワークショップ子ども向け	8月～1月	74名
	あそホール	7月、1月	85名
	JAXAコスミックレッシ in 塩竈	2月16日	39名
	「身近にある放射線」		
	?(はてな)ワゴン	4月～3月	177名
成人	パッチワーク講座	4月～2月	103名
	「はじめてのパッチワーク」		
	ワークショップ大人向け	7月、12月	24名
	大人の遊び時間	8月～3月	38名
芸術文化	アートギャラリー 展示開放事業	4月～3月	31団
	共に歩むコンサートin塩竈エスポ	4月8日	70名
	デイスカハリーキッズ科学実験館 コスミックレッシ	4月28日	131名
	BSコンシェルジュ公開収録	5月27日	216名
	につぼん縦断こころ旅		
	第14回 チャリティコンサート2012	8月24日	211名
	「新ロミオとジュリエット」オープンリハーサル	9月9日	60名
	エスポコンサート Domenica (休日の午後)	10月27日	70名
	KU-MA宇宙の学校at しおがま	12月、1月 2月	78名
	ESP DANCE PES 2012	12月20日	450名
	鶴田美奈子 Piano concert「眠って目覚める」	12月26日	170名
	「戦争と一人の女」原画展	3月 6日	1,391名
	3.11 POWER OF LIFE	3月11日	230名
	in Shiogama Miyagi		

【事業の課題・改善策】

現在の事業が年間を通じて計画的に実施されており、市民などへの定着もあることから、引き続き同様に行っていく。その中で、高まる市民の学習意欲と多様な学習ニーズにも応えるため、変化を持たせながら新しい動きに対応した事業を実施していく。



〈ふれあいエスポ塩竈（長井勝一漫画美術館）〉

3 魅力ある塩竈の芸術・文化の継承と創造

市民の豊かな情操を培い、うるおいのある市民生活の実現を目指し、「塩竈」の歴史、文化・芸術の保存、継承、創造を大切にすまちをつくるため、次の事務事業及び施策を実施しました。

事業名	3-① 文化財保護事業	担当課	生涯学習課
-----	-------------	-----	-------

【事業内容】

塩竈の歴史・文化を保存、継承するとともに、「塩竈学シンポジウム」「塩竈学問所講座」や、「しおがま何でも体感団」等の実施により、地域の歴史や文化を受け継ぎ活かすための学習機会を提供する。

また、インターネットを活用した Web 博物館「文化の港シオーモ」によって情報発信するとともに、東日本大震災関連ページの増設により、震災記録の保存と記憶の伝承に努める。

【平成 24 年度の事業実施概要・評価】

文化財保護事業として、次の取り組みを行い、歴史・文化の保存及び継承を推進し、市民に郷土への愛着を高めることができた。また、文化財パトロールにより、新しい遺跡（朴島宅地遺跡）を発見することができた。

(1) 塩竈学まちづくり学習支援事業の実施により、地域の歴史や文化を受け継ぎ活かすための学習機会を提供した。

(2) 塩竈学まちづくり学習支援事業の子ども版「しおがま何でも体感団」の実施により、塩竈の歴史・文化を子どもたちに伝えた。

<塩竈学まちづくり学習事業>

事業内容	参加者数
第 11 回塩竈学シンポジウム「災害の歴史に学ぶ」 ・基調講演：川島秀一氏 ・パネルディスカッション：川島秀一氏 斎藤善之氏 酒井朋子氏 高橋守克氏 ・日時：平成 24 年 12 月 8 日 ・場所：ふれあいエスプ塩竈	80 人
第 12 回塩竈学問所講座「災害の歴史に学ぶ」 ・日時：平成 24 年 9 月 30 日 10 月 7 日 11 月 18 日 ・場所：塩竈市公民館	延べ 128 人
しおがま何でも体感団（7～12 月・計 5 回） ・場所：市内各所（顔晴れ塩竈、塩釜水産物仲卸市場など） ・参加者数：市内の小学 5～6 年生	延べ 150 人

(3) 文化財パトロールを実施し、文化財の保存状況を確認した。

<文化財保護管理指導事業（文化財パトロール）>

調査日	調査箇所
平成 24 年 5 月 10 日・6 月 4 日・ 6 月 18 日・7 月 30 日	特別名勝松島湾全域・朴島北貝塚・東三百浦囲遺跡・前浜貝塚・内 裏島 E 遺跡・杉ノ入裏 A 貝塚・鹽竈神社並びに鹽竈ザクラ

(4) インターネットを活用した Web 博物館「文化の港シオーモ」の内容を更新し、幅広い人たちに塩竈の価値を分かりやすく解説した。

<Web 博物館事業「文化の港シオーモ」>

指標	H22 年度 (11 月～)	H23 年度	H24 年度
アクセス数 (回)	3,744	10,738	13,911
月平均アクセス数 (回/月)	748.8	894.8	1159.2

【事業の課題・改善策】

文化財保護事業については、次の取り組みにより、塩竈の歴史、文化・芸術の保存及び継承を図る。

- (1) 歴史的資料を後世に引き継ぐとともに、市民が地域の文化を正しく知る機会を提供するために史料や文化財の収集、保存、管理、展示施設等の環境を整え、充実させることが必要であり当面、インターネットを活用した Web 博物館「文化の港シオーモ」の充実により対応を行う。
- (2) 「特別名勝松島保存管理計画」の県から市への権限委譲や、震災復興事業等による埋蔵文化財包蔵地への宅地開発の増加が見込まれるため、派遣職員の要請も含め対応策の検討を行う。



(Web 博物館「文化の港シオーモ」)

事業名	3-② 市民交流センター管理運営事業	担当課	市民交流センター
-----	--------------------	-----	----------

【事業内容】

市民の教養と文化の振興を図り、住民福祉の増進に資するため、市民の生涯学習・文化活動の拠点として施設を運営する

【平成 24 年度の事業実施概要・評価】

市民の生涯学習・芸術文化振興の拠点、また市民交流の場として、新しい芸術分野の開拓、市民参加型の事業を主催するなどして、主にホールをはじめ、スタジオ、会議室などが市民に活用される機会を増やすことができた。

- (1) ホール、スタジオ、会議室等の施設利用状況については、利用件数が 3,573 件、利用人数が 54,308 人で、利用人数は対前年度で延 4,937 人の増となった。
- (2) 遊ホール協会自主事業では、三重県名張市の支援・協力により、本市初となる創作狂言「押絵と旅する男」の上演や、市民参加による「第九」合唱やミュージカルなど、13 件の事業を実施し、延 4,932 人の観客を動員した。
- (3) 児童の情操教育に資するため、市内の小学校を会場に、ピアノ・ヴァイオリンの音楽アウトリーチコンサートや、演劇ワークショップを開催した。

〈交流センター利用件数及び利用人数〉

	利 用 件 数(件)			利 用 人 数(人)		
	H23年度	H24年度	前年比	H23年度	H24年度	前年比
ホール	363	407	44	26,816	29,980	3,164
スタジオ	232	384	152	2,052	2,693	641
第一会議室	336	499	163	12,760	13,607	847
第二会議室	465	619	154			0
第三会議室	464	600	136			0
第一和室	392	472	80	6,128	5,426	△ 702
第二和室	332	390	58			0
視聴覚室	87	202	115	1,615	2,602	987
交流広場	0	0	0	0	0	0
合 計	2,671	3,573	902	49,371	54,308	4,937

【事業の課題・改善策】

- (1) 遊ホール事業については、ホームページでの情報発信により、広く文化芸術活動団体などへの利用促進を図るとともに、使用料の減免制度の活用等により継続して利用率を向上させる。
- (2) 今後も、利用促進を図りながら、市民が良質な文化芸術に気軽に触れることができるよう、本市ゆかりのアーティストの掘り起こしや、新ジャンルのステージの取組を行い、さらなる文化芸術の振興を目指していく。



4 感動と活力にあふれるスポーツ活動の推進

健康で活力に満ちた地域づくりと、あらゆる世代がスポーツを通して、安全に安心して健康増進に親しめる環境づくりのため、次の事務事業及び施策を実施しました。

事業名	4-① 屋内スポーツ施設管理運営事業						担当課	生涯学習課	
-----	--------------------	--	--	--	--	--	-----	-------	--

【事業内容】

体育館・温水プール等を利用者が安全・快適に使用できるよう管理運営を行うとともに、現代社会における市民の多様なスポーツニーズに応じて生涯スポーツの普及と推進に取り組み、市民の健康及び体力増進を図るため各種スポーツ教室や健康講座等の事業を行う。

【平成 24 年度の事業実施概要・評価】

屋内スポーツ施設管理運営事業については、次の取組を行い、生涯スポーツの普及と推進、市民の健康及び体力増進を図ることができた。

(1) 平成 18 年度から指定管理者制度を導入し 3 期目 1 年目の管理運営。施設の管理運営は、総じて良好で、対応もスムーズかつスピーディに行われた。

(2) 塩釜ガス体育館の利用者数は、震災の影響で第 2 競技場が使用できない期間があったこともあったが、震災の影響があった平成 23 年度との比較では個人利用と貸館ともに回復傾向を示したものの、平成 22 年度との比較では、減少となった。

(3) 温水プールは、災害復旧工事のため約 2 か月使用できなかったこともあり、全体では平成 22 年度と比べ 7.1%の減、個人利用は前年より 13.7%減少した。また、貸切利用は、震災の影響で、7 レーン中 2 レーンが使用できなかったことから、平成 22 年度との比較では、48.6%の減少となっている。

(1)塩釜ガス体育館利用状況

(単位:人、日)

区分 年度	個 人 利 用			貸 切 利 用			合 計	開 放 日 数
	小中高	一 般	計	競技場	各部屋	計		
22年度	6,464	16,119	22,583	96,596	10,013	106,609	129,192	298
23年度	3,666	13,945	17,611	42,878	7,694	50,572	68,183	288
24年度	4,384	20,310	24,694	87,076	8,252	95,328	120,022	339

(2)温水プール利用状況

① プール

(単位:人、日)

区分 年度	個 人 利 用						貸切利用	合 計	開 放 日 数
	幼 児	小・中	高校	一 般	障害者	計			
22年度	405	2,349	239	11,681	2,143	16,817	21,062	37,879	279
23年度	402	3,473	124	12,289	1,998	18,286	3,182	21,468	275
24年度	282	2,390	202	11,373	1,532	15,779	10,822	26,601	280

②軽運動場

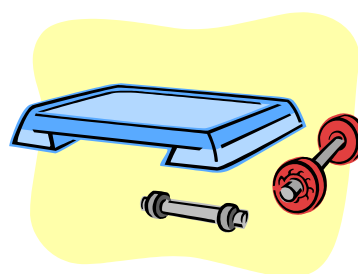
(単位:人、日)

区分 年度	個 人 利 用						貸切利用	合 計	開 放 日 数
	幼 児	小・中	高校	一 般	障害者	計			
22年度	1	10	53	1,074	113	1,251	1,851	3,102	279
23年度	1	87	16	1,062	47	1,213	1,020	2,233	275
24年度	7	43	49	1,511	72	1,682	2,905	4,587	306

【事業の課題・改善策】

屋内スポーツ施設管理運営事業については、次の取組により市民の健康及び体力増進につなげていく必要がある。

- (1) 体育館及び温水プールは、東日本大震災の災害復旧が終了したので、震災前の利用状況に回復することが予想されるが、各種教室の充実や魅力あるイベント等によりさらに利用者の増加に努めたい。
- (2) 屋内スポーツ施設は、体育館が築後 25 年以上、温水プールが 15 年以上経過しているので、施設・設備の計画的な更新が必要である。
- (3) 近年、トレーニング室の利用が増えている。トレーニング室の指導体制の充実の他、トレーニングマシン等の備品については、継続して安全を確保する必要がある。



事業名	4-② 屋外スポーツ施設管理運営事業	担当課	生涯学習課
-----	--------------------	-----	-------

【事業内容】

野球、サッカー、ソフトボール、グラウンドゴルフ等を行う屋外スポーツ施設や学校施設開放を、安全・快適に使用できるよう管理運営を行う。

【平成 24 年度の事業実施概要・評価】

屋外スポーツ施設管理運営事業については、次の取組を行い各スポーツ施設利用者の利便を図ることができた。

- (1) 屋外スポーツ施設の利用者数は、震災による影響等で使用できない施設もあったが、全体的に平成 23 年度より 35.3%の増加となり、震災前の利用者数まで回復した。
- (2) 学校施設開放の体育館の利用者数は、55.7%増加している。校庭についても、122.9%増となり、震災前まで利用者数が回復した。これは、学校の体育館が災害復旧工事終了により使用できるようになったことなどが要因となっている。
- (3) 新浜公園グラウンドは、震災の瓦礫置き場となっていたが、災害復旧工事を行い平成 25 年 4 月使用可能となった。今後のグラウンド使用のニーズに応えることが期待できる。
- (4) 玉川中学校ナイターは、平成 23 年度から冬期間も開放し、利用者ニーズに応えた。

〈月見ヶ丘・清水沢公園・新浜公園・二又各グラウンド利用状況〉（単位:件、人）

施設名	月見ヶ丘スポーツ広場		清水沢公園グラウンド		新浜公園グラウンド		二又スポーツ広場		小計①	
	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
23年度	214	8,434	536	19,304	-	-	471	22,461	1,221	50,199
24年度	291	13,596	451	22,099	-	-	682	32,603	1,424	68,298
増減	77	5,162	△ 85	2,795	-	-	211	10,142	203	18,099

〈玉川中学校ナイター・中の島公園テニスコート利用状況〉（単位:件、人）

施設名 年度	玉川中学校ナイター		中の島公園テニスコート		合計(①+②)	
	件数	人数	件数	人数	件数	人数
23年度	86	4,402	-	-	1,307	54,601
24年度	110	5,572	-	-	1,534	73,870
増減	24	1,170	-	-	227	19,269

※新浜公園グラウンド・中の島公園テニスコートは、震災により使用休止中

〈学校開放施設利用状況〉

（上段利用件数、下段人数）

施設名	体育館	校庭	施設名	体育館	校庭
一 小	273 3,250		二 中	263 4,905	25 1,432
二 小	363 7,253		三 中	367 5,526	21 1,320
三 小	416 9,919	203 5,840	玉 川 中	323 6,417	32 4,570
月見ヶ丘小	352 6,004		平成24年度 合 計	3,216 件 59,485 人	394 件 16,695 人
杉の入小	601 10,722	113 3,533	増減 (h24-h23)	1,016 件 21,283 人	87 件 9,205 人
玉 川 小	258 5,489		平成23年度 合 計	2,200 件 38,202 人	307 件 7,490 人

【事業の課題・改善策】

屋外スポーツ施設管理運営事業については、次の取組によりをさらなる利用者の利便の向上を図る。

- (1) 清水沢公園グラウンドの防災公園化事業によるリニューアル化。
- (2) 設置から 20 年以上経過している玉川中学校ナイター設備の老朽化対策の検討。



事業名	4-③ 一流アスリート誘致先導事業	担当課	生涯学習課
【事業内容】 塩釜ガス体育館の命名権を活用して実施する事業で、一流アスリートとともに体を動かし、高い技術・経験に触れられる機会を設けることによって、市民にスポーツによる感動と市内のスポーツ運動人口の裾野拡大を図る。 〈吉田沙保里ふれあいスポーツ・フェスタ in 塩竈〉 【平成 24 年度の事業実施概要・評価】 一流アスリート誘致先導事業については、下記の事業を行いスポーツによる感動とスポーツ人口の裾野拡大を図る一助となった。 (1) 事業名 東日本大震災復興祈念 吉田沙保里ふれあいスポーツ・フェスタ in 塩竈 (2) 日 程 平成 25 年 2 月 9 日（土） 13：00 から 15：30 まで (3) 会 場 塩釜ガス体育館 (4) 入場者 1,650 名 (5) 内 容 ①スポーツ・フェスタ ・「吉田塾」吉田沙保里キッズレスリング教室 ・対象：市内小学 4 年生以上 63 名 ②ふれあいトーク ・吉田沙保里選手と栄和人監督によるトークショー 【事業の課題・改善策】 スポーツの振興や普及拡大を図るためにも次の事項に留意し、塩釜ガス体育館の命名権を活用した同事業の継続が必要である。 (1) スポーツ運動人口の裾野拡大を図るため、アスリートを誘致できるネットワークの構築。 (2) スポーツに関する市民ニーズの把握。			

5 震災復興と災害に強い教育・文化の取組

震災から得た教訓を塩竈市の教育全体の課題として地域社会全体で共有し、必要な方策を検討していきます。学校施設等、教育施設の復旧については、震災前の状況にほぼ修復されました。震災からの復興については、長期的な取組が不可欠であり、次の事業を行いました。

事業名	5-① 復興教育支援事業	担当課	学校教育課
-----	--------------	-----	-------

【事業内容】

震災から1年を経て、この貴重な体験から学んだことを整理し、生きることの大切さを踏まえ、災害から自分自身の身を守ることを真剣に考える防災教育の充実を図った。

【平成24年度の事業実施概要・評価】

復興教育支援事業については、次の取組を行い、防災教育の充実に努めた。各学校に配置した防災主任を中心とした防災教育の実践を通じて、児童・生徒の防災意識の向上を図ることができた。

- (1) 各校防災主任の育成並びに学校防災マニュアルの浸透を図るため、関係団体及び有識者による推進協議会を年間3回開催
- (2) 防災教育推進者養成のため、学校防災主任者等講習会を年間2回開催（参加者数合計75人）
- (3) 震災体験文集『第1集』をもとに読み物資料として、防災教育指導副読本を作成（小学生版4,500部・中学生版3,200部発行）
- (4) 震災体験から学んだことを整理し、様々な視点から被災時の対応について考えるための文集『第2集』を作成（1,000冊発行）
- (5) 子どもの心のケアを支援する教師のための研修会を2回開催（参加者数合計63人）



〈浦戸サマースクールで高台への一次避難訓練〉

【事業の課題・改善策】

震災の被災地として、学校における防災教育の充実を図ることが重要となっている。次の取組により、震災時の状況を改めて整理し、児童生徒及び教職員が情報を共有し、自らの身を守ることを考えさせる必要がある。

- (1) 市総合防災訓練当日を「防災教育の日」として市内の全小・中学生が参加し、地域住民と協力して防災支援体制の構築を図る。
- (2) 学校防災（津波）に関する日ごろの備えを示し、市内小・中学校の共通ルールの整備を図る。

事業名	5－② 被災児童生徒就学援助事業	担当課	学校教育課												
【事業内容】 震災による、保護者の離職や住居の被災等あらゆる経済的理由で児童生徒の就学が困難になった家庭を対象として学用品費、通学用品費、学校給食費、医療費等を援助する制度である。 【平成 24 年度の事業実施概要・評価】 就学援助制度の趣旨を広く保護者に周知し、就学援助を必要とする世帯の実態把握に努めるとともに、当該保護者に対して支給を行い、経済的負担の軽減を図ることにより、児童生徒の就学を確保することができた。 ＜支給人数、支給額＞ <table> <tr> <th></th><th>小学校</th><th>中学校</th><th>合計</th></tr> <tr> <td>支給人数（人）</td><td>135</td><td>77</td><td>212</td></tr> <tr> <td>支給額（千円）</td><td>8、446</td><td>8、190</td><td>16、636</td></tr> </table> 【事業の課題・改善策】 震災後 1 年以上経過しているものの、未だに経済的状況が改善されない家庭があるため、様々な機会を通じて定期的に受給希望調査を行っていく必要がある。					小学校	中学校	合計	支給人数（人）	135	77	212	支給額（千円）	8、446	8、190	16、636
	小学校	中学校	合計												
支給人数（人）	135	77	212												
支給額（千円）	8、446	8、190	16、636												

事業名	5-③ 学び支援コーディネーター等配置事業	担当課	学校教育課
-----	-----------------------	-----	-------

【事業内容】

児童生徒の自主学習の習慣化を図るための学習支援を行うことを目的とする。

平成24年1月から、小学校において平日の放課後の教室等を利用して、児童が自主学習をする時間を設け、学習習慣の定着と学力向上を図るための学習支援を行っている。また、平成24年度からは「しおがまサマースクール」「しおがまウインタースクール」において、学習支援員を配置し児童生徒の学習支援を行う。

【平成24年度の事業実施概要・評価】

小学校において「放課後の学び支援の時間」を設けて、児童が進んで自主学習に取り組む環境整備を行った。また、長期休業期間中に実施する「しおがまサマースクール」「しおがまウインタースクール」においての学習支援を行った。

(1) 「放課後の学び支援の時間」での学習支援

(実施日) 行事等のある日を除く平日（長期休業期間を除く）

(会場) 浦戸二小を除く小学校6校

(支援体制)

①学び支援コーディネーターの配置

教員経験のある人材を1名採用し、各校を巡回しながら子ども達の指導や学び支援員への助言を行った。学び支援員が児童への対応の仕方を習得することができたため、円滑な運営を行うことができた。

②学び支援員の配置

各校1名ずつを配置し、児童が学習に集中できるような環境づくりと指導を行った。自主学習の取り組み方が身についた児童が増えた。

(開設日数、参加人数)

(単位：日、人)

	一小	二小	三小	月見小	杉小	玉小	合計
年間実施日数	171	149	147	123	149	147	886
年間参加人数	2,317	2,660	1,344	1,112	886	1,360	9,679
月平均参加人数	203	224	115	125	78	120	144

(2) 「しおがまサマースクール」「しおがまウインタースクール」での支援

(実施日) サマースクール：夏季休業期間中の各校が定めた5日間

ウインタースクール：冬季休業期間中の各校が定めた2日間

(会場) 市内小中学校

(支援体制) 小学校6校、中学校4校に各1名の学習支援員を配置し、児童生徒の学習を支援する

(参加人数) サマースクール：延べ5,438人（小学校3,479人、中学校1,959人）

ウインタースクール：延べ5,438人（小学校1,210人、中学校597人）

【事業の課題・改善策】

放課後の学び支援の時間は、学校の協力を得ながら実施するため、学校・保護者からの意見・要望を取り入れながら進めていくことが大切である。また、今後も児童生徒が自主学習の習慣を身につけることにより分かる喜びにつながり、学習意欲が高まる効果を期待して、進んで学習に取り組めるような環境を整える必要がある。

事業名	5-④ 放射能への対応	担当課	教育総務課
-----	-------------	-----	-------

【事業内容】

児童生徒の安全・安心の確保を図る観点から、市内小中学校において放射能測定を実施する。

【平成 24 年度の事業実施概要・評価】

生活環境及び給食に使用する食材、屋外プール水の放射能測定を実施した。結果はすべて不検出であり、保護者の不安を解消することができた。

- (1) 給食に使用する食材の事前検査を 1 校あたり週 2 回、1 食分の給食の事後検査を 1 校あたり週 1 回の割合で測定した。
- (2) 屋外プール水については、市内プールのサンプルとして第一小学校を対象に 3 回検査した。
- (3) 結果については、給食だよりに掲載したほか、随時市のホームページにおいて公表を行った。

<生活環境における放射能の測定>

測定対象	測定場所	基準値	測定方法	測定体制	開始時期	測定結果
空間	市内 55 か所	・汚染状況重点調査地域の指定基準: 空間放射線量 $0.23 \mu\text{Sv/h}$ ・屋外活動の制限暫定基準値: $1.0 \mu\text{Sv/h}$	簡易型放射線測定器	【毎日】 市役所本庁舎 【週 6 回】 東部保育所・月見ヶ丘小学校・第三小学校・第二中学校 【週 1 回】 小学校・中学校・市立保育所・幼稚園・保育園等 50 か所	平成 23 年 7 月	暫定基準値以下

<食材における放射性物質の測定>

項目	測定対象	基準値	測定方法	測定体制	開始時期	測定結果
学校給食 (事前検査)	給食食材	放射性セシウム 100Bq/kg (一般食品)	NaI シンチレーションスペクトロメーターによる簡易検査	1 日 5 品目 週 5 日	平成 24 年 4 月	暫定基準値以下
学校給食 (事後検査)	給食 1 食 全体			1 日 1 品目 週 1 日	平成 24 年 8 月	

【事業の課題・改善策】

児童生徒の安全・安心を第一に考慮し、国や県が行う放射能対策と合わせ、市民の不安が解消されるまで取組を進めることが必要である。

6 教育行政の積極的な情報発信

教育基本方針に基づき、教育委員会のさらなる活性化と教育行政の積極的な情報発信を行っています。

事業名	6-① 塩竈市教育フェスティバル	担当課	学校教育課								
【事業内容】 家庭、地域、学校が連携し、教育の充実と発展を図るとともに、明日のみやぎを担う子どもたちを育むことを目的とした「みやぎ教育の日を定める条例」が平成 17 年 4 月に施行された。 それを受け、多くの市民に教育への理解を深めるため、平成 18 年度から毎年 11 月、イベント内容を創意工夫しながら「塩竈市教育フェスティバル」を開催している。 なお、この事業に先んじて平成 2 年 1 月から学校給食をテーマとした「学校給食まつり」を開催していたが、現在はこのフェスティバルの「給食まつりコーナー」として位置づけ、「食育」、「ふるさと給食」、「地産地消」などのテーマで活動を紹介している。 【平成 24 年度の事業実施概要・評価】 前年度から中学校区単位で発表ブースを担当し、体験コーナーを充実させてきた。今年度、新たにステージ発表の部に幼稚園・保育所の参加を加えたことで、より幅広い年齢層の市民が来場した。 (1) 日 時：平成 24 年 11 月 10 日（土） (2) 場 所：塩釜ガス体育館第一競技場 (3) テーマ：「ともに学び ともに創ろう 笑顔輝くまち 塩竈」 (4) 内 容 ①ステージ発表（郷土芸能・踊り・合奏・合唱・吹奏楽演奏） （参加団体：幼稚園 1 箇所、保育所 2 箇所、小学校 3 校、中学校 2 校、高校 1 校） ②給食まつりコーナー：「おいしい顔の絵」展示・市内各小学校の食育活動紹介 スイーツづくり体験・豆つかみ競争・「塩竈汁」の試食等 ③幼稚園・保育所（園）コーナー：作品及び紹介パネルの展示 ④塩竈市内各小・中学校の紹介 DVD 放映等 ⑤ポスターコンクールの表彰・応募作品の展示 ⑥体験コーナー ○小・中学校コーナー（チリメンモンスターをさがせ！・タングラムに挑戦・オリジナル下敷き作り・オリジナルキーホルダー作り・ラベンダーの匂い袋作り） ○生涯学習コーナー（塩竈の藻塩づくり体験・牛乳パック工作・ニュースポーツ「スーパードライブ」体験） ＜来場者数＞ <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>H22 年度</th><th>H23 年度</th><th>H24 年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>来場者数</td><td>1,500</td><td>987</td><td>1,101</td></tr> </tbody> </table> 【事業の課題・改善策】 体験コーナーを第一競技場にブース毎に区切って設置したので、会場に活気が見られ、来場者にも大変好評であった。さらに、次のような工夫により、事業内容の充実につなげていく必要がある。 (1) 体験コーナーとステージ発表が同一会場であることから、時間配分を工夫する。 (2) 来場者を増やすために事業内容及び会場へのアクセス方法等の広報活動を充実させる。 (3) 塩竈市の教育に対する理解を深めるために、さらに家庭・地域との連携を深め、ステージ発表・展示・体験コーナーの内容をさらに工夫し、魅力あるものとしていきたい。					H22 年度	H23 年度	H24 年度	来場者数	1,500	987	1,101
	H22 年度	H23 年度	H24 年度								
来場者数	1,500	987	1,101								

Ⅱ 全体評価と今後の課題

6 回目の点検評価となる平成 24 年度は、「第 5 次塩竈市長期総合計画」と東日本大震災からの「塩竈市震災復興計画」を両輪として、向こう 10 年計画のまちづくりが始まって 2 年目となります。

大震災後、支援物資の提供や人的支援、被災児童生徒の招待、各種コンサートやスポーツ教室の開催等、本当に多くの皆さまによる支援が途切れることなく注がれていることに対し、心から感謝申し上げる次第です。

このような状況の中、教育委員会は、塩竈市教育基本方針に基づき、諸課題に全力で取り組み、各種事業を着実に進めた他、「塩竈市生涯学習プラン」や「塩竈市子どもの読書推進計画」を策定し、生涯学習や読書環境づくりの方向性を明らかにしました。

これらの事業実施にあたっては、長期総合計画におけるまちづくりの目標である「夢と誇りを創るまち」を基本に、「子どもの夢を育み、豊かな心を培うまちづくり」、をめざしながら、児童生徒をはじめ市民の皆さまの生涯にわたる学習の充実に努めたところですが、その取組の結果を、本市教育基本方針の区分に沿って、次のとおり評価をするものです。

1 家庭・地域と連携して子どもたちの「生きる力」を培う教育の充実

小中学校図書館は、支援による寄贈図書や図書整備員の配置等により読書環境が大きく改善されたものの、蔵書数整備目標未到達が 2 校あるので、蔵書更新とともに蔵書数増加を進める。

全国学力学習調査の結果、中学生国語 B（活用）が全国平均を上回ったが、その他の試験教科では全国平均に達していないので、本市学力向上プランに基づく各取組、特に学びスタンダードの自校化による学習ルールの定着に取り組む。一方、本年 2 月開催の長期総合計画進捗報告会（以下「長総進捗報告会」という。）で、サマースクール、ウインタースクールが、出席委員の皆さまから高い評価を頂戴したので、その他の事業についても、ご意見を参考にしながら改善を進める。

不登校やいじめも統計上増加を示しているので、学級担任をはじめ学校内外の関係者の連携により、実態把握、未然防止、兆候の早期発見、発生後の的確な対応、継続的指導に取り組む。

2 市民が心豊かに生活できる生涯学習社会の構築

市民図書館、公民館（震災後、市の仮事務所使用の本町分室を除く）は、利用数が震災前と同程度に回復しているものの、ふれあいエスプは前年に比べ減少。これらの原因分析を行いながら、より多くの市民が利用できるようさらに環境改善を進める。

3 魅力ある塩竈の芸術・文化の継承と創造

文化財保護事業を通じて地域への理解が深められ、また、Web 博物館「文化の港シオーモ」のアクセス数が前年比約 30%増加した。この関心の高さを維持するため、塩竈学まちづくり学習支援事業の充実を目指す。

4 感動と活力にあふれるスポーツ活動の推進

震災により被災した塩釜ガス体育館や室内温水プール、各種グラウンドなど生涯スポーツ施設は、暫定供用により利用者の利便を高めながら復旧を進めた結果、平成 24 年度内にすべての工事を終了させることができ、利用者数も回復の兆しがみえてきたので、引き続き学習環境整備に努める。

また長総進捗報告会では、女子レスリングの吉田沙保里選手を招いた一流アスリート誘致先導事業も高い評価をいただいたので、次回実施に向け、実施方法等にこの経験を活かしながら取り組む。

5 震災復興と災害に強い教育・文化の取組

小中学校は、児童生徒の心のケアに関する研修会をはじめ教職員による様々な取組により落ち着きがみられた。震災後3年目を迎える時期に鑑み、引き続き、児童生徒の心のケアや学校防災マニュアルの見直し、防災主任の育成等、復興の取組と併せて、今後の災害にも対応できるよう準備を進める。

また、浦戸地区の復旧・復興を進めるために、特別名勝松島保存管理について、生活再建と特別名勝保護の両立に努める。

6 教育行政の積極的な情報発信

市広報紙を活用し、生涯学習施設のイベント情報のほか、学校情報をシリーズとして毎月提供した。インターネットの活用としては、Web 博物館「文化の港シオーモ」のアクセス数増加等、生涯学習面が充実しつつある一方、学校ホームページの一部で更新が進まなかったため定期更新を促進する。

教育委員と各教育現場間の課題共有に向けての取組として、本市教育フェスティバルをはじめ教育機関が実施する様々な事業に、委員が積極的に足を運び情報の共有に努めたが、今後、校長会等との意見交換を通じ学校情報の共有にも取り組む。

その他、教育委員会の審議では、毎月1回開催される定例会及び緊急事案を審議する臨時会において、議案24件の審議をはじめ専決処分等の報告などを行いました。

今後とも、児童生徒及び市民の皆さまの安全安心を最優先に、これらの課題解決に迅速に対応しながら、被災された方々をはじめ市民の皆さまに多くの笑顔がみられるよう、家庭、地域と連携して各施策の充実に取り組んでまいります。

以下、各課単位の事務事業の評価について取りまとめました。

教育総務課

平成 23 年 3 月 11 日の震災で被害を受けた、各小中学校の復旧工事は平成 23 年度中に完了していましたが、平成 24 年度予定していた社会教育施設・体育施設の復旧工事も平成 24 年秋までに全て復旧することができました。

しかし、福島第一原子力発電所事故による放射能問題の解決は長い時間を要します。

学校における放射能対策については、児童生徒の安全・安心の確保の観点から、学校校庭、通学路等の空間線量測定やプール水の水質検査を継続して実施してまいりました。

また、食品の放射能汚染問題はもっとも心配がされるところです。給食の食材を含め、一般に流通している食品については、流通前に放射能検査が行われ、安全性を確認して出荷されているところですが、本市では、平成 24 年度当初から、管理体制を強化し、学校給食の食材の放射能検査を実施してまいりました。検査の結果は随時ホームページや給食便りで報告しております。これまで全ての放射能検査において基準値を超えたことはなく安定した状況ですが、今後とも継続して各測定を実施してまいります。

小中学校の図書整備数については、平成 23 年度の地域活性化交付金「住民生活に光をそそぐ交付金」の活用と震災以降の全国各団体からのご支援により、ほぼ目的を達成しましたが、平成 24 年度はより使いやすい学校図書館を目指し書架等の備品整備を行いました。さらに、前年度に引き続き学校図書整備員を配置しましたので、各学校の図書室も見やすく整理され、環境が改善されつつあります。

平成 24 年度から、新学習指導要領に基づき、中学校では主に武道の授業が取り入れられましたが、各中学校の武道の授業に必要な用具、畳等の備品を整備いたしました。

また、施設面では、平成 24 年度の主な事業として、杉の入小学校では 2 階から 4 階までのトイレと防火シャッターの改修工事を行いました。第二小学校では西校舎トイレの悪臭を改善するため給排水工事を実施し、第三中学校では、屋上の防水工事を実施しております。

各学校施設の老朽化が課題となっておりますが、改修については今後とも優先順位をつけて、順次実施してまいります。

その中で、震災で大きな被害はありませんでしたが、老朽化した各学校の給食室をどのように整備していくかも大きな課題となっております。

平成 24 年度は、塩竈市学校給食運営プランの策定に取り組みました。策定にあたり、各分野の市民代表からなる、「塩竈市学校給食運営プラン研究協議会」を立ち上げ、5 回にわたり、様々な分野から、安全で「塩竈」ならではの「おいしさ」あふれる食文化を取り入れた給食の実現を目指し、意見交換を重ねてまいりました。こういった経過を踏まえ、平成 25 年度は、早い時期にプランが完成するよう取組んでいきます。

学校教育課

震災後 1 年が経過し、平成 24 年度は、各学校の防災マニュアルを作成するとともに、防災教育を計画的に推進するため、防災主幹及び防災主任の研修会を実施するなど、今後の災害への備えにも継続して取組みました。また、前年度に引き続き、「教師のための心のケア研修会」を 2 回実施するなどしながら、学級担任・養護教諭・スクールカウンセラーを中心に児童生徒の心のケアにも努めました。

子どもたちの「生きる力」を培う教育の充実を目指し、学力向上のための施策も実施してきました。平成 20 年度からの継続事業として、小学校 6 校に指導教員を配置し、5 年生を中心に少人数指導を実施してまいりました。各校ともに、習熟度別の指導を取り入れる等、学力向上に努めております。

また、平成 23 年度から実施している「塩竈市学力向上プラン」（平成 23 年度～25 年度）に基づき、「教員の授業力向上」「子どもの学ぶ姿勢づくり」「家庭学習の充実」の 3 点を中心に学力向上に取り組んでおり

ます。

「教員の授業力向上」については、各校ともに授業を中心とした校内での研究を計画的に実践するとともに、外部講師を招へいして教員を対象とした教育講演会を開催するなど、個々の教員の授業力向上に努めております。「子どもの学ぶ姿勢づくり」については、各学校ともに、学習を進めていくルールを決め、話し方や聞き方、発言の仕方やノートの取り方などを「しおがま学びスタンダード」として作成し、塩竈で学ぶ子どもたちが、共通に学習の仕方を身に付けるとともに、自ら学ぼうとする意欲の向上を図っております。「家庭学習の充実」については、小学校では、家庭での学習時間を設定したり、「家庭学習の手引き」等を活用したりしながら、繰り返し指導を続けております。また、保護者会等での保護者への啓発も徹底してまいりました。中学校では、自主学習ノートを活用しての家庭学習の充実に努めております。

夏季休業中には、震災の影響で前年度に中止とした「しおがまサマースクール」「浦戸サマースクール（小学校4年生対象）」を再開させ、冬季休業中には継続して「しおがまウインタースクール」を2日間実施し、児童生徒の自主的な学習を支援し、家庭学習の習慣化を図りました。

今後も、「確かな学力」を培うことを教育委員会の重要課題ととらえ、学校・家庭・地域・行政が連携を深めながら、児童生徒の学力向上に努めてまいります。

経済的理由により就学困難となった児童生徒の数も増加していますので、義務教育の円滑な実施を図っていくためにも、継続的に必要な支援に努めてまいります。

児童の登下校における交通安全を確保するため、市教育委員会、各中小学校、PTA、スクールサポーター、国・県・市の道路管理者、塩釜警察署の参加により、通学路の緊急合同点検を実施し、関係機関の協力のもと、危険箇所の改善を図りました。

青少年の健全育成と非行防止、不登校対策については、各学校ともに真剣に取り組んでいるところですが、問題行動が時々発現しております。特に中学校においては、保護者と連携し、地区内の定期的な見回り活動や積極的な相談活動により、問題行動の未然防止に努めております。相談体制の充実と青少年相談員の定期的な街頭指導活動等を通して、非行防止に努めております。不登校については、小学生の増加が心配されますが、担任や養護教諭、スクールカウンセラー等がチームをつくり、きめ細かく対応しており、けやき教室での教科指導により高等学校への進学を後押ししているところです。

生涯学習課

平成24年度は、学習機会の充実及び学習活動の支援を進めながら、市民が笑顔にあふれ心豊かに生活していくため、生涯にわたって学び交流できる環境づくりを行いました。

学習機会の充実では、家庭教育講座「いじめから子どもを守る」を開き、子育てにかかわる大人が子ども自身の人権感覚を育てるための知識や方法を具体的に学びました。また、市内の全ての中学校で実施している中学生と赤ちゃんふれあい交流事業で、「生命の尊さ」や自分に向けられている「親の愛情」に気づき、自分の存在について考えました。更に、中・高生夏休み保育体験学習では、中・高生が市内の保育施設で1週間の保育体験を通し「生命の尊さ」や「子育ての難しさや喜び」を学びました。生涯学習推進事業として各年齢層に幅広い学習機会を提供する「まちづくり・しおがま出前講座」は、震災の影響で実施件数は減少していましたが、徐々にではありますが実施回数が回復してきました。

学習活動の支援では、社会教育関係団体の情報を「生涯学習カード」として知らせるほか、「家庭教育支援事業」や「まちづくり支援事業」による助成制度により、市民の自主的な学習活動を支援することができました。特に、宮城県協働教育プラットフォーム事業を活用し、生涯学習情報誌『塩竈学びナビゲーション2013』の発行により、地域の多様な学習情報を提供できました。多様化・高度化している市民の学習意欲に対応するため、今後とも、多彩な学習機会の提供、学習情報の発信及び相談体制の充実等が求められています。

次に、歴史・文化の継承と振興については、震災を踏まえ市民自らが防災意識と地域の防災力を高めるために、防災学習の推進が求められていることから、塩竈学問所講座では「災害の歴史に学ぶ」を開催しました。また、塩竈学まちづくり学習事業の子ども版「しおがま何でも体感団」の実施により、塩竈の歴史・文化を子どもたちに伝え、郷土への愛着を育むことができました。更に、インターネットを活用したWeb 博物館「文化の港シオーモ」の内容を更新し、「しおがま昔めぐり」をアップしました。「しおがま昔めぐり」では、本市の歴史や文化芸術資料を映像でわかりやすく解説し、幅広い人たちに塩竈の価値を分かりやすく解説することができました。また、毎年実施している文化財パトロールの実施により、文化財の保存状態を確認するとともに、朴島宅地遺跡を新たに発見することができた。これからも、地域の豊かな魅力を発信することにより、地域の理解と郷土意識の醸成に努めてまいります。

生涯スポーツでは、先ず災害復旧の状況です。塩釜ガス体育館及び塩竈市温水プールは、平成 24 年 9 月までに全ての災害復旧工事を終了し、10 月から全面供用することができました。また、清水沢公園グラウンド及び月見ヶ丘スポーツ広場の屋外スポーツ施設の災害復旧事業も、平成 24 年度中に終了することができました。

次に、スポーツ施設の利用状況等です。塩釜ガス体育館及び塩竈市温水プールの管理運営は、平成 18 年度から指定管理者制度を導入し 3 期目の初年度でした。施設の管理運営は総じて良好で、対応もスムーズかつスピーディに行われました。体育館及び温水プールとも、使用者は震災前の状況までは戻っていませんが、休館日の臨時開館等で利用者のスポーツニーズに応えました。また、屋外スポーツ施設の利用者については、震災による影響等で使用できない施設もありましたが、全体的には平成 23 年度より増加しています。学校施設開放も災害復旧工事が終了したことで利用者が増加しています。

スポーツ振興事業では、塩釜ガス体育館の命名権を活用して実施した一流アスリート誘致先導事業で、吉田沙保里ふれあいスポーツ in 塩竈を開催し、スポーツによる感動づくりを支援するとともに、市内のスポーツ人口の裾野拡大を図ることができました。また、オリンピックデー・フェスタ、兵庫県高砂市スポーツ推進委員との交流を含めた塩竈市民スポーツフェスティバル、全日本実業団対抗女子駅伝競走大会などのイベントを通して、本市のスポーツ振興を図りました。

生涯学習センター

生涯学習センターは、子どもから高齢者まで、遊びと学びの活動を通して集い交流していく、地域に開かれた日常的に利用できる生涯学習施設として、開館以来多くの方に利用いただいています。

まず、公民館では社会教育関係団体等への貸館業務を行うほか、ご高齢者を対象に「千賀の浦大学」、女性を対象に「女性セミナー」、青年層を対象に「ヤングカレッジ」、一般向けに「公民館教室」などを実施し、市民の皆様にご利用いただいています。毎年秋には、芸術文化の発表の場として日本画、洋画、書道の 3 部門公募による「市美術展」の開催や塩釜市芸術文化協会主催の「芸術文化祭」も開催しております。また、「公民館まつり」では、社会教育関係団体等が日頃の成果を発表しています。

次に、ふれあいエスプ塩竈では、市民図書館と連携して図書の貸し出しを行なっているほか、定期的に「おはなし会」や絵本に関係した「ワークショップ」などを開催して本に親しむ機会を提供しています。気軽にものづくりを楽しむ空間としての「創作室」では、ボランティアやスタッフによる「ワークショップ」を通じて、身近なものから作る楽しみを感じていただいています。多目的ホールであるエスプホールでは、日頃は軽スポーツを提供しながら、週末などには文化芸術的な事業や各種講演会なども開催しており、「しおがま文化大使交流事業」では、前年度に引き続き、ピアニストの鶴田美奈子さんの演奏で市民の皆さんに喜んでいただきました。また新しい試みとして、中学校の授業でダンスが必修化されたことから、地域の発表の場として「ESP DANCE PES 2012」を開催しました。園児から大学生まで様々な

ジャンルのダンスが披露され、会場が熱気に包まれました。

館内には長井勝一漫画美術館の名称で、戦後の漫画文化史を語る上で欠かすことのできない漫画雑誌『ガロ』を創刊した本市出身の長井勝一氏の功績を讃えた施設があります。昨年度は、『ガロ』ゆかりの漫画家として近藤ようこさんをお迎えしました。坂口安吾原作の新作「戦争と一人の女」の原画展とトークショー&サイン会を開催し、県内外からも多くのファンが訪れました。

更に今年度は、イベントや施設情報の発信をしている館報「ふれあいエスプ塩竈公民館だよりWAY」「エスプK I D ‘S」が、第4回全国公民館報コンクールで優良賞を受賞しました。今後も、より一層市民の皆様の高まる生涯学習への熱意や、文化芸術活動への支援や期待に応えられる地域に開かれた施設を目指して参ります。

市民交流センター

市民交流センター（市民図書館・遊ホールなど）は、中心市街地という立地条件を生かして、市民が自由に学習する場、交流する場の提供に努めています。

市民図書館の平成24年度の利用状況は、移動図書館を含めて貸出者数は約5万7千人、貸出冊数は約20万冊となり、震災のあった前年と比較して貸出者数は約2千人、貸出冊数は約700冊増加する結果となりました。

利用者数・貸出冊数について、平成23年の大震災から利用が戻ってきている状況となっています。

市民図書館では、利用者が必要な時に必要な情報を得られるよう資料を収集・整理・保存し、市民への提供・活用などに努めています。また、資料媒体として、インターネットや河北データベースなどを用いた電子情報の提供を行っています。併せて所蔵情報・新刊情報・行事案内などについても、図書館情報としてホームページなどを通じて発信し、利用者サービスを行っています。

さらに障がいのある利用者に対し、大型活字本の整備や郵送サービスなどの充実に努めています。

一方で、「読み聞かせ」などの活動を行っている図書館ボランティアを支援しながら連携し、市民の読書活動の推進に取組、今後も継続して図書館サービスの一層の向上に努めていきます。

遊ホールは、プロにも対応できる本格的なホールであり、地域の文化芸術活動の拠点として、幅広く市民に活用されています。平成24年度は、事業件数で407件、延べ約3万人の利用がありました。

遊ホール協会では、震災復興支援事業として、三重県名張市の支援・協力により、本市初となる創作狂言「押絵と旅する男」の上演や、本市ゆかりのアーティストや国際的なヴァイオリニストによるコンサート、リサイタルをはじめ、市民参加によるコンサート、ミュージカルなど幅広いジャンルの事業を行い、文化芸術の振興・情報発信に努めました。

市民との連携が進んでいますが、なかでも本市としては初めて、本市ゆかりのアーティストらの指導により、市民が参加して「第九・歓喜の歌」に挑戦し、復興に向けて力強い合唱を披露しました。また、9回目を迎えた「塩竈夢ミュージカル」や、平成16年に有志で設立した「遊遊シアターフレンズ」による自主映画上映会も継続・定着しています。さらに、アーティストが小・中学校に出向いてコンサートを行う「音楽アウトリーチコンサート」や演劇家による「演劇ワークショップ」を実施することができました。今後も、利用促進を図りながら、本市ゆかりのアーティストの掘り起こしや、新ジャンルのステージなど企画の充実に図り、地域の文化芸術振興に取組んでいきます。

Ⅲ 学識経験者による意見

今泉 理栄子氏（元小学校校長）

1 はじめに

塩竈市教育委員会が所管する学校教育・社会教育の執行状況について、塩竈市立第三中学校、第三小学校の小・中学校各1校と、塩竈市民交流センター（市民図書館、遊ホール）、塩竈市生涯学習センター（公民館本館・ふれあいエスプ塩竈・公民館本町分室）そして塩釜ガス体育館と温水プールを視察し、代表の方の説明をいただきました。以下に視察結果とその所見を報告いたします。

2 視察の概要と点検評価について

(1) 学校教育について

最初に塩竈市立第三中学校を点検しました。校長先生から学校の現状について映像も交えて詳しく説明を受け、校舎内を案内していただきました。学校教育目標のサブタイトルに震災の「復旧から復興へ」を掲げ、学校経営方針に職場の課題として互いの隙間を埋める行動力の大切さを重視していました。一般的に言われる「一枚岩」よりも「石垣」でいこうとする校長先生の熱い呼びかけが、全職員生徒共に一丸となって様々な活動に取り組んでいこうとする決意と意欲を後押ししているように感じました。

特に評価したいことは、学力向上の取組と生徒理解・生徒指導、そして防災教育についてです。

学力向上の達成については、①研究授業の積極的な実施 ②学習規律の継続指導 ③実態に応じた数学・英語の少人数指導の工夫 ④家庭学習の定着と充実 ⑤朝読書による学習環境の醸成などの具体的な取組を掲げていました。特に学力向上方策として学力検査に真摯に向き合い、その結果の分析考察がしっかりなされていることに課題に向けての大きな決意を感じました。学年による特徴や習熟度別分布比較等も確認し、意識調査の分析も詳しく行われ、特定の習熟度層に焦点をあてて、その特徴と成績の因果関係をも把握し、普段の授業や生活指導に活かそうとする対策がとられていました。そのための校内研究においてもワークショップで工夫や改善点を追求しあい、授業づくりの視点について活発に取り組んでいる様子が映像などを通して大変分かりやすく伝わりました。このような熱心な取組は、学習面だけではなく、生徒理解や生徒指導にも良い結果を生むことにつながると思います。「鍛え、育む」という指導理念のもと、学年内、学年相互の迅速な情報の共有を図り、生徒の集団的な伸びや良さをさらに伸ばそうとする姿勢を事案に即して具体的にお話いただき、全教育活動を通して教職員が意思の疎通を図り、ぶれない一貫した意識で一丸となって指導に取り組んでいる様子がよくうかがえました。「石垣」の理論が徹底されているように思います。

防災教育については震災で犠牲者が出ているということもあり、危機対応能力を育てるために様々な場面を想定して、年度初め間もない時期の避難訓練や、放送機器を使わない避難訓練などを実施しているということでした。車椅子の生徒の避難も含め、防災や減災につなげるべく指導を学校教育にとって重要課題として取り組んでいる姿勢に頭が下がります。震災を体験してきた生徒達はこのような訓練を通して、いつ何時見舞われるかわからない災害に対応する力を身につけていってくれることを願って止みません。

校舎内は整然としていて、掲示板にも学年毎に必要な情報が得られるようなコーナーも工夫されました。特別支援学級では、一つのテーマで毎年モチーフを変えての合同製作の途中のはり絵を見かけることができました。興味をひく題材を扱い、こまやかな作業の中で身に着くことも少なくなく、自分の分担した所に思い入れが残り、達成感や充実感につながる活動だと思います。生徒の明るい笑顔とあ

いさつが印象的でした。また渡り廊下付近の車椅子のスロープの整備や教職員と生徒が作った小さな畑など、そこここに教職員と生徒が作り上げる学校という印象が強く残りました。

次に塩竈市立第三小学校を点検しました。初めに校長先生から学校の現状について説明を聞き、2年生を除いた校舎内全学年の様子と施設の案内をしていただきました。北校舎の大規模改造工事を控え、教室の移動に伴う備品整理も含め、今後の膨大な引っ越し作業が待っているようでした。北校舎はやはり階段の破損など老朽化が非常に目立ちました。また工事に伴い教職員も含め、児童の登下校時の安全確保や事故防止に努める対策も大変念入りに計画されているようでした。その後給食も試食し、栄養士による2年生の食に関する指導の様子を参観しました。

特に評価したいことは、学習指導並びに食の指導の充実、地域連携の取組です。

学習指導については、「確かな学力をつけると共に進んで学習する態度をもった児童の育成」という施策のもと、今年度の力点は、実態が異なる学年集団の特徴をとらえるために全学年とも学力テストを実施してその結果を分析し、学年・学級ごとの実態を把握し授業研究に反映させていくということでした。そのための事前研究なども積極的に行われているようです。学力定着学年プランを掲げ、そこで児童の変容を見合いさらに検討をし合うことで次につながる研究体制になっていると感じました。授業中の様子についても40人学級の中学年はやや教室が狭い感じでしたが、高学年の少人数指導なども含め大変落ち着いた中での取組が見られました。特に感心させられたのは、1年生の授業で「ひらがな」の学習でした。教師の板書の文字の丁寧さとひらがなの入門期にある児童の取組の真剣さに圧倒されました。このような基本の一つ一つを大切に指導され、またしっかりと受け止めようとする姿勢が1年生からできていることのすばらしさを感じます。まさに「基礎基本の重視」そして「確かな学力」を見せつけられた思いです。

食の教育も同様で、2年生の給食指導を参観して、改めて「望ましい食習慣を形成しようとする態度」を身につけさせようと推進されている塩竈市の食育の継続した取組の姿勢が根付いていることを感じました。当日の指導は「よくかんで食べよう」という題材で、ゆっくりと30回以上噛むことの大切さが健康につながることに気づかせていくという低学年にも分かりやすい指導内容でした。食事中にもかかわらず、しっかりとモードを切り替えて健康増進に役立てようと話を聞く態度が児童にできているという食の教育の徹底ぶりにも感心させられました。

地域連携の取組については、月1回の学校参観、アンケートの実施や学校だよりの地域への配布など常に地域を意識した様々な活動で、積極的に開かれた学校を目指しているように思います。行事予定表などで学校の動きが分かることは地域にとって学校理解に大いに役立ち、支援・協力の糸口がつかめることにもつながります。全戸配布でなくとも回覧でも効果的だと思いますので地域連携の一環として、実施していない他校でも取組んでいただきたいと思います。また安全サポーターさんへの登下校の安全見守りに対して、極力巡視も行っているという学校側の誠意ある対応に頭が下がりました。また三中学区は、市内で唯一の一小学校と一中学校の配置ということから、特設クラブや志教育のあいさつ運動、そしてPTA活動に至るまで、学区の特性を生かした様々な小中連携も活発に行われていました。連携を意識した両校の双方向の熱い思いが今後とも発展的に実現されていくことを望みます。

(2) 社会教育について

午後から、市民交流センターと塩竈市生涯学習センター、そして塩釜ガス体育館と温水プールを点検しました。

市民交流センターでは重点事業について説明を受けた後、施設内を案内していただきました。市民図書館の利用状況について、平成22年度以降のデータが示されましたが、平成24年度は貸出者総数・貸

出数ともに横ばいながら徐々に震災前に戻りつつあるようです。他市町の住民の方も多く利用されているということを聞き、近隣住民にとっても中核的な文化施設にもなっていることを感じました。ただ、団体貸出の利用状況では、小・中学校の利用が減少していることが気になりました。児童図書フロアも子どもの目線を配慮した空間構成になっていたり、興味や季節に応じた特集が組まれていたり、大変に充実しているので、学校図書館だけでない体験も読書好きを育てるうえで効果的だと思います。学校の利用の増加を期待します。また、図書館事業も年間を通して様々に企画されていました。

将来的な図書館の利用者を見据えて実施されている「絵本デビュー事業」をはじめ、種々のお話会に加え今年度から始まった「赤ちゃんおいで！おはなし会デビュー」など息の長い取組に敬意を表します。是非継続して将来の読書好きの塩竈市民の育成に努めていただきたいと思います。遊ホールを含め、施設全体の稼働率も高いようです。昨年、浦戸第二小学校・浦戸中学校の創作劇「仙台白菜事始」を観る機会がありました。遊ホールの客席超満員の中、子どもたちのすばらしい演技もさることながら、他校のたくさんの児童の姿が見られたことに感動しました。総合的な学習の一環としてでしょうか。このような機会をとらえて交流を深め、視野を広めようとする市内の学校間の連携を感じるとともに、ホールの活用の効果的なあり方をも考えさせられました。

生涯学習センターでは要覧をもとに説明いただき、公民館とエスプそして本町分室も案内していただきました。生涯学習の場や機会として、また文化芸術活動の拠点として大切な役割を担っている施設は、平成 24 年度に復旧工事が行われ、震災前と変わりなく貸館業務が行われるようになっていました。公民館は、平成 23 年には避難所だったために減少した利用人数も去年は震災前の平成 22 年度を大きく超える程になっていました。高齢者等への配慮としてエレベーターも取り付けられるなど、以前にも増して利用者の便宜が図られていました。ただ、公民館教室の受講申し込みについては、「料理」や「陶芸」を除いては昼夜の講座ともに充足率が低いように思いました。せっかくの機会なので大いに参加されるような広報も今後の課題でしょうか。エスプでも様々な自主企画事業が展開されていました。学区内だけでなく、広く多くの子どもたちが参加できることを願っていましたが、月見ヶ丘小学校が学区外でもエスプに行くことを認めたという話を聞きました。こどもたちに幅広く豊かな体験をさせるための英断かと思います。安全面で気になる所は家庭の協力を得るなどして、たくさんの子どもたちにエスプを利用してほしいと思いました。また、前回の視察で復興を願うイベントが数多く実施されているようでしたので、その後の経過をお聞きしたところ、「塩竈を元気づけたい」という支援イベントがまだ数多く残っていました。全国のたくさんの方々からの、一過性にしない継続した取組に一市民としても感謝したいと思います。

公民館本町分室については、日本建築史上も貴重と言われているアーチ型の木造建築を塩竈の財産として後世に残すべく改修と、一部を「杉村惇美術館」として整備する計画が進行中でした。市内各施設に分散している杉村画伯の作品が一同に会することは、価値の高い芸術作品の鑑賞の絶好の機会だと思います。重厚で静寂感漂う中にも熱情あふれる恩師の作品の数多い展示を、私事ですが教え子の一人としても心待ちにしています。

最後に、体育館と温水プールを点検しました。復旧工事も終えて、震災があったとは信じがたいほど各施設とも整備されていました。利用者数の復活を見ているようです。特に体育館は復旧工事の関係で開放日数の減少を補うため、休館日である日も開放する等の処置をとり、利用状況の便宜を図っていたようです。非常事態とは言え、公共施設として市民のための対応の柔軟さに敬服しました。

3 おわりに

前回視察した施設に本町分室と塩釜ガス体育館並びに温水プールも加わり、それぞれの施設とも限られた時間の中での訪問でした。一昨年 3 月 11 日の大震災で受けた大きな被害については、学校や各教

育施設における復旧工事も完了し、復興に向けての動きが前回の視察より一段と進んでいることを確認しました。防災安全対策についても、学校現場や社会教育施設の様々な対応が至るところに配慮されておりました。小・中学校とも防災意識を大切にした取組と、児童生徒の実態を踏まえた学力向上の施策のもとに教育活動が展開されていることを目の当たりにしました。折しも、公民館の生涯学習課は壱番館に、青少年相談センターは公民館に、そして本町分室にあった教育委員会スペースを美術館にするための整備と、大移動の最中でした。新しい環境を活かしての関係機関の効果的な活動が、本市教育並びに芸術文化のますますの充実・発展につながることを願っております。



(平成 25 年度点検評価の様子 (第三小学校))

本田伊克氏（宮城教育大学准教授）

塩竈市教育委員会が所管する事務の管理及び執行状況を視察し、点検・評価を行った。以下にその結果と所見を述べる。

1 塩竈市立第三小学校を視察して

(1) 第三小学校における教育目標、教職員配置、地域との関係

塩竈市立第三小学校では、山内順校長先生より学校説明を頂き、全学年の授業視察を行い、給食体験をさせていただいた。塩竈市立第三小学校（以下「三小」）は、教育目標として「認め合い（徳）、学び合い（知）、高め合う（体）児童の育成」を掲げて、日々の教育に取り組んでいる。

教職員数は30名であり、平均年齢は44.5歳（男性職員45.6歳、女性職員44.0歳）である。年齢構成は20代2名、30代7名、40代9名、50代12名と、30代以上はバランスがよいが、20代が少なく、ここがより手厚くなればかなりバランスのよい年齢構成になると思われる。

三小では、保護者・地域との連携にも力を入れている。学校と保護者・地域の間コミュニケーションをつくり、信頼関係を構築していくことを重視している。

三小では、保護者・地域住民から50名以上の「学校安全サポーター」を募っている。その際、ただ来てくださいと言うだけではなく、要所に立ってもらっている地域のボランティア1人ひとりに校長先生が毎日声をかけて回るなど、サポーターとのコミュニケーションと信頼関係の形成に力を入れている。こうした地道な取組の積み重ねがあるからこそ、学校と保護者・地域住民の日常的な連携も可能になるのだと思う。

(2) 全教職員による目標の共有と協働を通じた生徒指導

まず生徒指導に関して「思いやりの心を育て、豊かな人間関係を醸成する生徒指導の推進」を目標に、「あかるいあいさつ・きれいなくつばこ・きれいなかさたて」をスローガンに、基本的な生活習慣の形成と定着を図っている。このスローガンに基づく生徒指導の取組は現校長の山内先生の3代ほど前から継続的に行われているということである。

生徒指導に関しては、三小全職員の共通理解と目標の具体化を図っている。生活委員会で毎月目標や実施状況の検討を行うほか、校長先生も目標の達成状況をみている。担任の教員自身にやる気をもってもらうよう気を配りながら、校長先生自ら声掛けを欠かさない。校長先生を含め、全教職員が生徒指導の目標を共有し、お互いに目標を達成できるよう励まし合い、協力し合う雰囲気をつくっていることを感じた。

(3) 学習指導における学力テスト活用の試み

学習指導については、研究主任と研究部を中心に、学年ごとの学力の特性と実態を捉えた上で、指導の工夫や改善につなげていく取組が進んでいる。

学年始めの4月に国語と算数の業者テストを全学年で実施し、研究部で学年・学級ごとの学力定着状況を把握し、課題を分析する。そして、学年・学級で研究授業を行い、子どもの変容をみたり、教員が相互に評価したりすることを通じて学力の定着と向上を図り、一番大きなステップとして考えている全国学力テストにつなげていくという方針である。

三小の研究部では、全国学力テストを活用する試みも行っている。知識の「活用」力を問うB問題について、どのような観点、どのような力を問う問題なのかを把握し、子どもたちが問題に取り組む際に自らの力がほんとうに出せるようにしている。B問題に関しては塩竈市の平均を少し下回っているが、それを単なる「傾向と対策」による点数アップではなく、子どもの学習意欲を喚起する工夫を通じて、結果として得点も向上するようにしている。たとえば、5年生にはB問題に取り組ませているが、それ

はこの問題を解くことを通じて子どもたちの力がつくという判断のもとである。しかも、子どもたちによいと思う問題の一部を選ばせて解かせるというやり方を採用している。

(4) 特色ある教育活動—食育とクラブ活動

特色ある教育活動としては、「楽しい給食」をスローガンにした食育の取組をご紹介いただいた。「よくかんで食べよう」という目標のもと、学校栄養職員さんによる 2 年生への指導の様子を見せていただいた。食に関する指導は全学年・学級で行っている。さきいかを入れた「かみかみサラダ」を試食させていただいたが、よく噛めば噛むほど美味しさが感じられる一品で、より美味しく味わうためにこそよく噛むようになる工夫がされていた。

また、特設クラブ活動では、郷土芸能クラブによる塩竈神楽の充実と、ブラスバンドクラブの発表の場の充実に取り組んでいる。いずれも中学校と連携しながら、中学生が小学生に教えさせる試みを大事にしている。これは、三小と三中の学区が重なり、地域や保護者の連携も密であるからこそ可能なことであろう。

2. 塩竈市立第三中学校を視察して

(1) 第三中学校の教育環境と教職員構成、地域との関係、教育目標

塩竈市立第三中学校では、学校説明と授業視察を行った。

塩竈市立第三中学校（以下「三中」）は、教職員 40 名であるが、このうち県費の職員が 29 名、市費の職員が 11 名である。全校生徒数が 267 名、12 学級（普通学級 8、特別支援学級 4）であるから、子どもに対応できるスタッフの数という面でも人的支援が手厚い。今後もこのような教育条件が維持されることが望ましい。

以下に述べる三中の学力向上と生活指導の取組は、教職員の協同を通じて行われている。三中では、職場として以下の 3 つのことを大切にしている。①職務に対する厳しさがある中にも、笑顔と笑い声の絶えない職員室、②互いの分掌の隙間を積極的に補い合う職員室、③新たな職務内容にも「知恵」と「工夫」をもって挑戦する職員室である。

三中は校長室、職員室、会議室の壁が薄く、校長先生の耳にも、教職員が子どもの話をする声が自ずと耳に入ってくるような環境であるという。

また、第三小学校と校区が共通であることもあり、PTA や地域と、学校との情報のやりとりは密であり、PTA の三役の人も段取り良い運営を行ってくれているということである。

三中では、目指す学校像として「夢・感動・活力のある学校」を掲げ、指導理念として「鍛え、育む」を挙げている。また、目指す教師像として「生徒と共に伸びる教師」を掲げ、平成 25 年度には「共感し理解し指導する教師」、「研鑽に励む教師」に加えて、新たに「創造性と実践力のある教師」を挙げている。

以下でみていくように、三中では、「鍛え、育む」という指導理念を追求することと軌を一にして、目指すべき教師像を追求している。学力向上の面においても、生徒指導の面においてもそうである。指導理念である「鍛え、育む」については、生徒にも折に触れて話をしている。はじめは背中を押されながら、しかし、ゆくゆくは自らの力で壁を乗り越えていけるようにという願いを、教師から日常的に伝えている。

(2) 三中の生徒の学力と体力に関する状況と課題および実践的取組

三中の学力調査の状況は、全国平均をやや下回っているということである。数学を不得意とするほど活用問題の得点がより低くなる傾向がみられ、また、家庭学習をしない傾向もある。また、授業のなかでも、学校生活全般においても、自己有能感をなかなか感じるができずにいるのではないかということである。

学力向上に関する三中の教師の取組としては、「第1回学力向上サポートプログラム事業」と称した研究授業の取組を行っている。すべての研究授業について、①学習課題の明確化、学ぶ意欲を喚起する工夫、②教える場面、考えさせる場面の適切な取組、③自分の言葉で表現する場の設定について、KJ法的に気づいたことを付箋に書きだして交流するなどしながら、よい点と改善点を共有し合う試みを進めている。

研究授業については、年間1人1回実施することを提案し、生徒に「ここが分からない、ここができるようになりたい」と言わせる授業を目指した取組を行っている。

ほかに、1年生を対象とした試行的な取組として、帰りの会を活用した補充学習を実施し、繰り返し書いて確実に覚える学習訓練を行っている。また、家庭学習の定着と充実を、授業および帰りの会の補充学習とのつながりを確保しつつ図っている。家庭学習については3年生でもやってこない、やってきても学習の質が低く、そのあたりをどう変えていくかを課題として取組んでいる。

体力テストでは、ボール投げや敏捷性に課題があることが明らかになったことを踏まえ、健康管理や体育科の授業実践に反映させたり、部活動合同トレーニングを行ったりしている。

学力向上に関する三中の取組で特に印象的だったのは、授業活動の基礎となる「学習規律の継続指導」の試みである。生徒全員の視線を確認してからの授業あいさつをすることを、先生一人ひとりが意識するような試みを行っている。生徒全員と目が合っているかを確認し、少し間をおいてから挨拶をすることを、集会の場でも、授業でも意識するようにしていく。この点について、日ごろから意識的に取組んでいる先生に揃えるように、教師全員が取組んでいくという試みである。これは、先に述べた、子どもたちの間で授業や学校生活において自己肯定感や自己有能感をどう培っていくかという課題への挑戦の一環でもあるだろう。

(3) 三中における生徒理解、生徒指導の取組

生徒理解、生徒指導関連では、生徒が謝ることを経験していないことが指導上の課題として認識された。修学旅行のとき集合時間に遅れたグループに注意をし、他の教職員と生徒に対して謝らせようとしたが、素直に謝罪の気持ちを表せなかったり、前に出で謝ることを嫌がったりする態度を示したという。

こうした生徒指導上の課題は、三中だけではなく、三小や地域との連携を通じた、「多くの人と関わり、人としての望ましい生き方を模索する『志教育』」というより広い取組のなかにも位置づけられている。

2年生を対象とした33の事業所での職場体験が与えたインパクトは大きく、体験を通じて生徒に将来展望や自らの可能性や能力に対する自信や成長しようとする意欲も生まれた。生徒に1人一文というかたちでもいいので書かせ、親や1年生にも公表したいと考えているということである。

また、校内外におけるあいさつ運動の実施を、「アルカス運動」として行っている。毎月の第3水曜日に、三小に中学生が出向き、あいさつを行うもので、生徒会や委員会に所属している生徒9名ほどが参加している。アルカスとは北極星の周囲を回る星のことで、お兄さん・お姉さんの周りを子どもがアルカスのように取り囲んでいるイメージである。

3. 塩竈市民交流センターを視察して

塩竈市民交流センターのある壱番館を視察した。塩竈市民交流センターは、Ⅰ「遊ホール、スタジオ、会議室」、Ⅱ「市民図書館」、Ⅲ「視聴覚センター」を所管している。市民交流センターの職員は10名である。

塩竈市民図書館（以下「図書館」）は、平成24年度の登録者総数が34,987名で、うち塩竈市内居住者は22,600名であり、残りの12,387名は利府市や多賀城市など塩竈市外からである。図書資料の所蔵数は224370点、雑誌21,007点、視聴覚資料14,869点（いずれも平成24年度）と、大変充実して

いる。図書館運営の方針としては、流行にとらわれず、50～100年後まで保存すべきものをしっかりと収めていきたいということであった。

図書館は壱番館の3階と4階部分で、3階には大人向け、地域向けの書籍のほか、大型の絵本も置いてある。絵本などは学校向けに1か月の貸出も行っている。4階は児童書コーナーで、「おはなしのへや」という、母親向けの育児書と子どもへの読み聞かせスペースを一体化したコーナーも設けてある。図書館は閲覧席も広くゆったりとしており、窓際には高めの机などもあり、思い思いの姿勢で読書を楽しめるように工夫されている。

壱番館5階は市民の文化交流事業のために貸し出されるホール、会議室、和室、スタジオがある。

遊ホールは、小さくてもきらりと光る地域の文化を生み出し、交流していく場として、遊ホール協会主催事業を15件（平成24年度）実施している。380席ほどのホールで、テラス状の2階部分にはペア席もある。稼働率は大きい（頻繁に利用されている）が、メンテナンスがよく、綺麗な状態が保たれている。和室やスタジオの利用状況もよく、スタジオはアンプ付きのドラムなどを安価で借りることができる。

4. 塩竈市生涯学習センターとスポーツ施設を視察して

塩竈市公民館（本館）を案内していただいた。公民館は、市の生涯学習センターが管理運営している。同センターは、子どもから青少年、大人にいたるまで、多くの人が遊びと学びの活動を通して集い交流していく、地域に開かれた日常的に利用できる生涯学習の拠点として設置された。

公民館（本館）は談話室、5つの会議室などがあり、毎日閉館時刻の21:00まで予約が入るなど活発に利用されている。公民館で開催している講座については、料理、陶芸の人気の高いようである。華道、茶道、着物着付け、書画、絵画の充足率がおおよそ50～60%台ということで、この数字が必ずしも低いとは思わないが、料理の100%、陶芸の93%に比べるとやや開きがあり、それはどのような理由によるものか、また充足率の動向によって講座の種類など見直しが行われたりするのかなという点について知りたいと思った。

また、公民館に隣接した「ふれあいエスプ塩竈」は、子どもからお年寄りまで、学び、遊びを通して交流できる生涯学習施設である。

こちらは、屋外に「遊びの公園」、「ツリーハウス」、「空中庭園」、屋内にプレイスペースやアートのスペースなどが設けられていることから、公民館がどちらかというと会議や会合を目的にした施設であるのに対して、エスプは憩いと遊びの場を提供するという性格が強いのであろうか。公民館（本館）とエスプには重なっているように思えるサービスもあれば、独自のものだと思えるものもあり、それは実際に二つの施設を見学させていただいたからこそわかったことであった。

次に、公民館本町分室を見学する。歴史ある瀟洒な建築で、日本でも珍しい木造アーチが組まれた大講堂など、ずっと時を過ごしたいと思う空間である。

平成25年度末に杉村惇美術館として展示空間が整備されることは喜ばしいことである。それにとどまらず、現在も利用の多い映画・演劇・舞踏・音楽など市民の活動のために使えるような整備計画であることにも、市の社会教育関係者の見識を感じる。

最後に塩竈ガス体育館と温水プールを見学させていただいた。震災の被害で体育館は第2競技場天井の支柱とそれを支える「まんじゅう」と呼ばれる土台部分が損壊し、温水プールはプールサイドの壁にひびが入るなどしたが、現在は復旧している。いずれも立派な施設であり、市民の健康増進・維持に貢献し続けてほしい施設であると考えている。

塩竈市教育委員会点検・評価報告書

平成 25 年版
(平成 24 年度実績)

平成 25 年 9 月発行

発 行：塩竈市教育委員会

編 集：塩竈市教育委員会 教育部 教育総務課

〒985-0052 宮城県塩竈市本町 1 番 1 号

TEL: 022-362-7744 FAX: 022-365-3347